

ダレン・アーモンド Darren Almond

関連 URL・SNS 情報

Web: <https://www.maxhetzler.com/artists/darren-almond>

1971 年、英国のウィガンに生まれる。1990 年代に同国の現代美術界に旋風を巻き起こした「ヤング・ブリティッシュ・アーティスト」のムーブメントを象徴する展覧会、「センセーション展」(1997 年、ロイヤル・アカデミー・オブ・アーツ) に最年少で参加し注目を集める。2003 年にはヴェネツィアビエンナーレに出品、2005 年にはターナー賞にノミネートされるなど、国内外で高い評価を得る。日本では 2013 年に水戸芸術館で初個展「ダレン・アーモンド | 追考」を開催。2023 年には SCAI THE BATHHOUSE (東京) で 7 年ぶりとなる個展を行った。時間や記憶、旅をテーマにした作品は、写真、立体、映像など、その表現手法も多岐にわたり、いずれも抒情的で瞑想的な美しさを湛えている。メトロポリタン美術館 (アメリカ)、ニューヨーク近代美術館 (アメリカ)、テート・ギャラリー (英国)、ダイムラー・クライスラーアートコレクション (ドイツ)、バイエラー財団 (スイス)、イスラエル博物館ほか、各国の主要な美術館に作品が収蔵されている。

略歴

- 1971 英国、ウィガン生まれ
1993 ウィンチェスター・スクール・オブ・アート (英国) 卒業
現在、ロンドンを拠点に活動

主な個展

- 2001 「Night as Day」Tate Britain (ロンドン、英国)
2002 「A」National Theatre、Fourth Wall、South Bank、
commissioned by Public Art Development Trust (ロンドン、英国)
2004 「If I Had You」Galerie Max Hetzler、St.Johannes Evangelist Church (ベルリン、ドイツ)
2005 「Isolation」K21 Kunstsammlung Nordrhein-Westfalen (デュッセルドルフ、ドイツ)
2008 「Darren Almond」SCAI THE BATHHOUSE (東京)
「Moons of the Iapetus Ocean」White Cube (ロンドン、英国)
「Fire Under Snow: Darren Almond」Parasol unit foundation for contemporary art (ロンドン、英国)
2009 「Sometime still」Galerie Max Hetzler (ベルリン、ドイツ)、Xippas Gallery (アテネ、ギリシャ)
2010 「Fullmoon@Eifel」Weidingen (アイフェル、ドイツ)、
Matthew Marks Gallery (ニューヨーク、アメリカ)、PKM Trinity Gallery (ソウル、韓国)
「The Principle of Moments」Whitecube (ロンドン、英国)
「As it is」Galeri Alfonso Artiaco (ナポリ、イタリア)
2011 「Landscape with Path」The High Line (ニューヨーク、アメリカ)
「...between here and the surface of the moon」FRAC Auvergne (クレルモンフェラン、フランス)
「Nocturne」Villa Merkel (エスリングゲン、ドイツ)

- 2012 「Full Moon」 ル・ドメーヌ・ド・ショーモン・シュール・ロワール（ロワール、フランス）
「Sometimes Still」 SITE Festival（ストラウド、英国）
- 2013 「ダレン・アーモンド | 追考」 水戸美術館（茨城）
- 2015 「Present Form」 Christie's Mayfair（ロンドン、英国）
- 2016 「陽の光のかげで」 SCAI THE BATHHOUSE（東京）
- 2017 「Timescape」 ジャン大公現代美術館（ルクセンブルグ）
- 2018 「時の光」 スクールデレック芸術社会学研究所（東京）
「The Light of Time」 Crown Point Press（サンフランシスコ、アメリカ）
- 2019 「In Light of Time」 Jesus College（ケンブリッジ、英国）
- 2021 「Full Circle」 White Cube（オンライン）
「Dark Light」 Galerie Max Hetzler（パリ、フランス）
- 2022 「Free Fall, 2022」 Galerie Max Hetzler, Window Gallery（ベルリン、ドイツ）
「Distant Silence」 Galerie Max Hetzler（ベルリン、ドイツ）
- 2023 「Timeline」 SCAI The Bathhouse（東京）
- 2024 「Life Line」 White Cube（ロンドン、英国）

主なグループ展

- 1997 「Delta」 パリ市立近代美術館（パリ、フランス）
「Sensation: Young British Artists from the Saatchi Collection」
Royal Academy of Arts（ロンドン、英国）
- 2000 「Apocalypse: Beauty and Horror in Contemporary Art」
ロイヤル・アカデミー・オブ・アーツ（ロンドン、英国）
- 2002 「Video Acts - Single Channel Video Works from the Collections of Pamela and Richard Kramlich
and the New Art Trust」 ICA（ロンドン、英国）、P.S.1（ニューヨーク、アメリカ）
- 2003 「第50回ヴェネツィアビエンナーレ」（ヴェネツィア、イタリア）
- 2005 「Universal Experience: Art, Life, and the Tourist's Eye」 ハイワードギャラリー（ロンドン、英国）、
シカゴ現代美術館（シカゴ、アメリカ）
「ターナー賞展」 Tate Britain（ロンドン、英国）
- 2009 「Closed Circuit: Video and New Media」 メトロポリタン美術館（ニューヨーク、アメリカ）
「Altermodern: Tate Triennial」 Tate Britain（ロンドン、英国）
- 2010 「Platform Seoul 2010: Projected Image」 アートソングェセンター（ソウル、韓国）
「Between Here and There: Passages in Contemporary Photography」
メトロポリタン美術館（ニューヨーク、アメリカ）
- 2011 「Beyond the Crisis, 6th Biennale da Curitiba」（クリティバ、ブラジル）
「Elgiz 10 Istanbul」 Museum of Contemporary Art（イスタンブール、トルコ）
「Recent Acquisitions: Prints and Photographs」 ニューヨーク公共図書館（ニューヨーク、アメリカ）
「The Wilderness」 Miami Art Museum（マイアミ、アメリカ）
- 2012 「Good Night」 イスラエル美術館（エルサレム、イスラエル）

- 「超群島ーライト・オブ・サイレンス」青森県立美術館（青森）
- 2013 「Artist File 2013」国立新美術館（東京）
- 2014 「Making Links: 25 years」SCAI THE BATHHOUSE（東京）
- 2016 「The End of the World」ルイジ・ペッチ現代美術センター（トスカーナ、イタリア）
- 2017 「The Garden」アロス・オーフス美術館（オーフス、デンマーク）
- 2018 「The MOON From Inner Worlds to Outer Space」
ルイジアナ近代美術館（フムレベック、デンマーク）
「Wilderness」シルン美術館（フランクフルト、ドイツ）
「Painting the Night」ポンピドゥー・センター・メス（メス、フランス）
- 2019 「Apollo's Muse: The Moon in the Age of Photography」
メトロポリタン美術館（ニューヨーク、アメリカ）
「堂島リバービエンナーレ 2019」（大阪）
「Fly Me to the Moon. The Lunar Landing」Kunsthau Zurich（チューリッヒ、スイス）
- 2020 「SCAI 30th Anniversary Exhibition」SCAI PARK（東京）
- 2022 「Uncombed, Unforeseen, Unconstrained」
Parasol unit foundation for contemporary art（ヴェネツィア、イタリア）
- 2023 「Darren Almond, Isamu Noguchi and Virginia Overton」White Cube（フロリダ、アメリカ）
「#37 Anish Kapoor, Darren Almond, Kohei Nawa, Lee Ufan, Reijiro Wada」
SCAI THE BATHHOUSE（東京）

パブリックアート

- 2022 Elizabeth Line、Bond Street Station にてコミッション作品設置（ロンドン、英国）

以上

今坂 庸二朗 Yojiro Imasaka

関連 URL ・ SNS 情報

Web: <https://yojiroimasaka.com/>

Instagram: [@yojiroimasaka](https://www.instagram.com/yojiroimasaka)

1983 年広島生まれ

日本大学芸術学部写真学科を卒業後、2007 年に渡米。ニューヨークのプラット・インスティテュート芸術大学院にて美術修士課程・MFA を取得し、現在はニューヨーク、ブルックリンを拠点に活動。これまで欧米を中心にミネアポリス美術館、パリフォト、Miyako Yoshinaga ギャラリー、東京都美術館などでの個展やグループ展で作品を展示。作品はカーネギー美術館、ニューオリンズ美術館、サンノゼ美術館、ミネアポリス美術館等のアメリカ主要美術館に永久コレクションとして多数収蔵されている。近年では自身初となる日本での個展「Wet Land」を銀座 SIX 内にある THE CLUB ギャラリーで開催。同年秋、イタリアを代表するファッションブランド、FENDI とのコラボレーションで原宿・表参道に大型アートワークを飾るなど近年日本を始めアジアでも積極的に活動の幅を広げている。

略歴

- 1983 広島生まれ
- 2007 日本大学芸術学部写真学科卒業
- 2010 プラットインスティテュート美術大学院ファインアーツ科修士課程終了
ニューヨーク在住

個展

- 2009 「Wandering」 FOUR 11 Gallery (ブルックリン、アメリカ)
- 2010 「New Works」 Steuben Gallery, Pratt Institute (ブルックリン、アメリカ)
「UPFRONT」 二人展、Chelsea West Gallery (ニューヨーク、アメリカ)
- 2011 「Landscape 2011」 Miyako Yoshinaga Gallery (ニューヨーク、アメリカ)
- 2014 「Sleeping Beauty」 Miyako Yoshinaga Gallery (ニューヨーク、アメリカ)
- 2017 「Blue Bayou」 Miyako Yoshinaga Gallery (ニューヨーク、アメリカ)
- 2018 「Trade Winds」 Miyako Yoshinaga Gallery (ニューヨーク、アメリカ)
「Yojiro Imasaka」 Paris Photo 2018 (パリ、フランス)
- 2019 「ATLAS」 Nowhere (ニューヨーク、アメリカ)
- 2020 「Correspondence」 Miyako Yoshinaga Gallery (ニューヨーク、アメリカ)
- 2022 「Wet-Land」 THE CLUB (東京、日本)
「Returning Bayou」 16 Rue du Faubourg (パリ、フランス)

グループ展

- 2012 「The Art Show」 New York University, Stern (ニューヨーク、アメリカ)
 「Beyond 1lens and over 100 eyes」 hpgrp Gallery (ニューヨーク、アメリカ)
 「A Vision Across Boundaries」 VT Artsalon (台北、台湾)
- 2014 「Nocturnal Labyrinth」 Miyako Yoshinaga Gallery (ニューヨーク、アメリカ)
 「Artwork on Skateboards」 DeBuck Gallery (ニューヨーク、アメリカ)
 「Jersey Scapes」 NJCU New Jersey City University Gallery (ニュージャージー、アメリカ)
- 2015 「Terrada Art Award Exhibition」 T-Art Gallery (東京、日本)
 「100+: A Photography For Every Year of the MIA」 Minneapolis Institute of Art (ミネソタ、アメリカ)
 「Untitled」 Ozasahayashi Gallery (京都、日本)
- 2016 「A Group Exhibition」 mhPROJECTnyc (ニューヨーク、アメリカ)
- 2017 「In Organic -Emerging Japanese Artists-」 Resident of Ambassador/Consul General of Japan
 (ニューヨーク、アメリカ)
- 2018 「Blurred Horizons」 Art Project International (ニューヨーク、アメリカ)
- 2019 「Photo-Graffiti 3」 Nihon University College of Art, Photography Department Gallery (東京、日本)
 「20th Anniversary Show Part 1 (Photography) Miyako Yoshinaga Gallery (ニューヨーク、アメリカ)
- 2020 「South East North West: New Works From The Collection」 Sun Jose Museum of Art
 (カリフォルニア、アメリカ)
 「Oltre Nature」 Marignana Arte (ヴェネツィア、イタリア)
- 2021 「Echoes」 THE CLUB (東京、日本)
- 2022 「Eight Japanese Artists」 NowHere (ニューヨーク、アメリカ)
 「Horizon Dreams of Color」 LIGHTWELL (台北、台湾)
- 2023 「30 Years」 Art Projects International (ニューヨーク、アメリカ)
 「Metamorfosi」 Marignana Arte (ヴェネツィア、イタリア)

アートフェア

- 2017 「PGH Photo Fair」 (ペンシルベニア、アメリカ)
 「Paris Photo」 (パリ、フランス)
- 2018 「Paris Photo」 (パリ、フランス)
- 2019 「PGH Photo Fair」 (ペンシルベニア、アメリカ)
 「Unseen」 (アムステルダム、オランダ)
- 2020 「ZONAMACO」 (メキシコシティ、メキシコ)
- 2021 「MIA -Milan Image Art Fair-」 (ミラノ、イタリア)
 「Paris Photo」 (パリ、フランス)
 「ART021」 (上海、中国)

パブリックアートプロジェクト

- 2014 Kurashiki Photo-Mural, Contemporary Photography Exhibition Public Art Project (岡山、日本)

2022 FENDI x Yojiro Imasaka, -TSUNAGU- Omotesando Art Project (東京、日本)

受賞歴

2004 ハッセルブラッド・フォトコンペティションにて「コニカミノルタ賞」受賞

2005 DIESEL 主催 International Talent Support ITS FOUR Photo for MINI にて「ファイナリスト」に
選ばれる

2006 日本写真家協会 2006・公募展にて「22才以下優秀作品賞」受賞
イセ文化基金主催・日米美術学生展 2006 にて「審査員賞」受賞

2007 日本大学芸術学部卒業制作作品にて「芸術学部長賞」受賞

2014 第一回テラダ・アート・アワードにて「入賞」

奨学金

2004 コニカミノルタ画像奨学金財団

2008 Pratt Institute 美術院大学

パブリックコレクション

ニューオリンズ美術館 (ルイジアナ州、アメリカ)

カーネギー美術館 (ペンシルベニア州、アメリカ)

サンノゼ美術館 (カリフォルニア州、アメリカ)

ミネアポリス美術館 (ミネソタ州、アメリカ)

ミード美術館／アマースト大学 (マサチューセッツ州、アメリカ)

以上

江上 越 Etsu Egami

関連 URL ・ SNS 情報

Web: <https://www.whitestone-gallery.com/ja/blogs/artist/etsu-egami>

Instagram: [@egamietsu_artstudio](https://www.instagram.com/egamietsu_artstudio)

X: [@EtsuEgami](https://twitter.com/EtsuEgami)

1994 年、千葉県に生まれる。ドイツのカールスルーエ造形大学と中国・北京の中央美術学院へ留学。2021 年 FORBES ASIA 世界を変える 30 歳以下の 30 人に最年少アーティストとして受賞。2020 年 VOCA 展に出展、2021 年文化庁新進芸術家ニューヨーク派遣、同年オークションで作品が 5820 万円で落札される。2023 年 BEST ARTIST PRIZE 受賞。主なパブリックコレクションに DIOR (フランス)、He Art Museum (広東)、ウッドワン美術館 (広島)、IRIS ART MUSEUM (蘇州)、ガラージアートミュージアム (モスクワ)、HUAWEI (深圳) ほか。

略歴

- 1994 千葉県生まれ
- 2016 北京中央美術学院 BFA 取得
- 2022 北京中央美術学院 PHD 取得
中央美術学院博士号取得

主な個展

- 2016 「This is not a Mis-hearing game」 de Sarthe gallery (北京、中国)
「Mis-hearing × Truth」 Horizon Art Space (北京、中国)
- 2018 「Dialogue beyond 400 years」 Playground London (ロンドン、英国)
- 2019 「君の名は？」 Whitestone gallery Ginza (東京)
- 2020 「エントランスギャラリー vol.1 江上越」 千葉市美術館 (千葉)
- 2021 「Social Distancing」 A2Z PARIS (パリ、フランス)
「にじいろ」 軽井沢ニューアートミュージアム (長野)
「Face book」 Chambers Fine Art (ニューヨーク、アメリカ)
「星の時間」 銀座蔦屋書店アトリウム (東京)
「RAINBOW」 Whitestone gallery Taipei (台北、台湾)
「Ichigo Ichie」 Whitestone gallery HQueens (香港、中国)
「In a Moment of Misunderstanding all the masks fall」 Tang contemporary (北京、中国)
- 2022 ワークショップ「江上越：つたわるかな？」 原美術館 ARC (群馬)
「RAINBOW」 Tang contemporary (ソウル、韓国)
「憑りつかれる魂——江上越が問いかける近代、その地平」 ウッドワン美術館 (広島)
- 2023 「本能と秩序の対決—江上越描く三国志 —北方謙三×江上越」 京都蔦屋書店 (京都)

- 「Oriental Mystery——江上越個展」HOW Art Museum（上海、中国）
 「江上越個展：行く川の流れはたえず」Whitestone gallery Singapore（シンガポール）
 2024 「江上越：生命線」銀座蔦屋書店（東京）
 「Etsu Egami: Rainbow」Mythenstein Project（チューリッヒ、スイス）
 「江上越プロジェクト」サンフランシスコ・アジア美術館、サンフランシスコ（予定）

主なグループ展

- 2018 「第2回北京国際メディアアートビエンナーレ」CAFA ART MUSEUM（北京、中国）
 2019 「Sovereign Asian Art Prize finalist exhibition」Tai Kwun Contemporary（香港、中国）
 「DESERT GARDEN」Ota Fine Arts Shanghai（上海、中国）
 2020 「CAF 賞 2020 入選作品展覧会」代官山ヒルサイドフォーラム（東京）
 「VOCA 展 2020 現代美術の展望—新しい平面の作家たち」上野の森美術館（東京）
 2021 「Collection visit with Sam and Rachel Shikiar」
 Sam and Rachel Shikiar 邸（グッゲンハイム美術館企画プログラム）
 「Where are we? Where is the future?」中央美術学院美術館（北京、中国）
 「南城美術館プレオープン展」南城美術館（沖縄）
 2022 「Broken Pinata」L21 Gallery（パルマ・デマヨルカ）
 「美術館之眼」蘇州金鶏湖美術館（蘇州、中国）
 「Unit London Takeover」Nassima Landau Foundation（イスラエル）
 2023 「第3回新疆芸術ビエンナーレ《文明と交融》」新疆美術館（新疆、中国）
 「The Rabbit Project」Chambers Fine Art（ニューヨーク、アメリカ）
 「群馬 AIR プロジェクト 2022 成果発表展」群馬県立近代美術館（群馬）
 「Philosophers 諸子百家（江上越×JY）」Whitestone gallery H Queen's（香港、中国）
 「Power of Painting」新澤美術館（河北、中国）
 「Return journey」張家港市美術館（河北、中国）
 2024 「Art Basel Hong Kong」Hong Kong Convention and Exhibition Centre（香港、中国）
 「Elevate The Object」SECCI（ミラノ、イタリア）
 「The Science of Freedom」Albertz Benda（ニューヨーク、アメリカ）
 「ミス ディオール展覧会 ある女性の物語」六本木ミュージアム（東京）
 「Fukuzawa Re:birth：福沢一郎×平川恒太・ユアサエボシ・江上越」富岡市立美術博物館（群馬）
 「Gegen den Strich—Die Generation Z in der Malerei」SCHLOSS SACROW（ポツダム、ドイツ）

主な受賞歴

- 2018 千葉市芸術文化新人賞
 2019 Sovereign Asian Art Prize 2019 ファイナリスト
 2020 CAF 賞 2020 ファイナリスト
 Forbes China 30 UNDER 30 選出
 2021 Forbes Asia 30 UNDER 30 選出

- 2022 ネットポルテ「2022年アート界を揺るがす6人のすばらしい女性」に選出
- 2023 BBART（芭莎藝術）「Best Artist Prize of the year 2023」に選出
Artsy「10 Ultra-Contemporary Artists of Asia and the Diaspora with Market Momentum」に選出
- 2024 PRESTIGE 香港、PRESTIGE シンガポール「Artist to Watch 2024」に選出

以上

金氏徹平 Teppei Kaneuji

関連 URL ・ SNS 情報

Web: <https://teppeikaneuji.site/>

Instagram: [@kaneujiteppei](https://www.instagram.com/kaneujiteppei)

1978 年、京都府に生まれる。京都市立芸術大学美術学部彫刻科を卒業後、2003 年、同大学院美術研究科彫刻専攻を修了。日用品やフィギュアなど身のまわりの事物を素材にした、コラージュ的手法を用いた作品で知られる。彫刻、絵画、映像、写真など表現形態は多岐にわたり、2011 年頃からは舞台美術や演劇作品の制作にも携わっている。2020 年には金沢 21 世紀美術館のギャラリースペースを舞台にした公演『消しゴム森』をチェルフィッチュとともに創作し、セノグラフィアーを担当した。主なパブリックコレクションに国立国際美術館、豊田市美術館、東京都現代美術館、横浜美術館ほか。現在は母校の京都市立芸術大学で准教授も務める。

略歴

- 1978 京都府生まれ
- 2001 京都市立芸術大学美術学部彫刻科卒業
- 2003 京都市立芸術大学大学院修士課程美術研究科彫刻専攻修了

主な個展・二人展

- 2002 「空白と漂泊」 児玉画廊（大阪）
- 2003 「白煙と濃霧」 児玉画廊（大阪）
- 2004 「白夜のユーレイ」 児玉画廊（東京）
「小動物と大洪水」 児玉画廊（大阪）
- 2006 「phenomenon」 児玉画廊（東京）
「liquid collage」 TAKEFLOOR（東京）
「飛沫と破片」 児玉画廊（大阪）
- 2007 「hole & all」 児玉画廊（大阪）
「smoke & fog」 児玉画廊（東京）
「金氏徹平展 splash & flake」 広島市現代美術館（広島）
- 2008 「Great Escape」 project room sasao（秋田）
「TEAM 10 金氏徹平『Ghost In The City Lights』」 トーキョーワンダーサイト渋谷（東京）
- 2009 「変成態—リアルな現代の物質性」 gallery αM（東京）
「Tower」 Roslyn Oxley9 Gallery（シドニー、オーストラリア）
「金氏徹平展: 溶け出す都市、空白の森」 横浜美術館（神奈川）
- 2010 「Ghost in the Museum」 兵庫県立美術館（兵庫）
「Recent Works 'Post Something」 シュウゴアーツ（東京）
- 2011 「POST-NOTHING」 Roslyn Oxley9 Gallery（シドニー、オーストラリア）

- 「Ghost in the City Lights」 Eslite Gallery (台湾)
- 2012 「Something on the Planet」 シュウゴアーツ (東京)
- 2013 「Something in the air」 Roslyn Oxley9 Gallery (シドニー、オーストラリア)
- 「Towering Something」 Ullens Center for Contemporary Art (北京、中国)
- 「Towering Something」 chi K11 art space (上海、中国)
- 2014 「フライド幽霊とポイルド空想」 シュウゴアーツ (東京)
- 「Endless, Nameless (Constructions)」 STPI (シンガポール)
- 「四角い液体、メタリックなメモリー」 Kyoto Experiment 2014 京都芸術センター (京都)
- 2016 「金氏徹平のメルカトル・メンブレン」 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 (香川)
- 「ちがったさんのラッキー、金氏徹平+岡田利規」 金沢 21 世紀美術館 (石川)
- 2017 「記号は記号ではない」 上野の森美術館 (東京)
- 2018 「Summer Fiction」 アートフロントギャラリー (東京)
- 2019 「髪とプラスチックと黄金」 haku (京都)
- 「Plastic Barricade」 Jane Lombard Gallery (ニューヨーク、アメリカ)
- 2020 「David Shrigley/Teppei Kaneuji」 Yumiko Chiba Associates viewing room shinjuku (東京)
- 「En/trance」 ジャパン・ソサエティ (ニューヨーク、アメリカ)
- 「Silver Mist from the Empty Pot, Chihiro Mori/Teppei Kaneuji」
Jane Lombard Gallery (ニューヨーク、アメリカ)
- 2021 「物！物！物！」 Click Ten Art Space (北京、中国)
- 2022 「金氏徹平 S.F. (Something Falling/Floating)」 市原湖畔美術館 (千葉)
- 「Fluorescent Green Box と未発表、未完成作品」 NADiff a/p/a/r/t / (東京)
- 2023 「DOUBLE TROUBLE CMTK: CHIHIRO MORI X TEPPEI KANEUJI」
Jane Lombard Gallery (ニューヨーク)
- 「POOOPOPOO」 Yumiko Chiba Associates (東京)
- anonymous collection、ZeroBase 神宮前 (東京)

主なグループ展

- 2007 「VOCA 展 2007 現代美術の展望—新しい平面の作家たち」 上野の森美術館 (東京)
- 2008 「MOT アニュアル 2008 解きほぐすとき」 東京都現代美術館 (東京)
- 2011 「六甲ミーツ・アート 芸術散歩 2011」 (神戸)
- 「シンガポール・ビエンナーレ 2011」 National Museum of Singapore (シンガポール)
- 「JAPANCONGO」 Le Magasin – Centre National d' Art Contemporain (グルノーブル、フランス)
- 「世界制作の方法」 国立国際美術館 (大阪)
- 2012 「Japan Media Arts Festival in Hong Kong 2012 Parade: Invisibles In Japanese Media Arts From
“Night Parade of One Hundred Demons” to “IS Parade”」 ArtisTree (香港、中国)
- 2013 「Re:Quest—1970 年代以降の日本現代美術」 ソウル大学校美術館 (ソウル、韓国)
- 「堂島リバービエンナーレ 2013」 堂島リバーフォーラム (大阪)
- 「六本木クロッシング 2013 展:アウト・オブ・ダウト—来たるべき風景のために」 森美術館 (東京)

- 「Now Japan; Exhibition with 37 contemporary Japanese artists」
Kunsthall KAdE (アメルスフォールト、オランダ)
- 「Mono No Aware. Beauty of Things. Japanese Contemporary Art」
エルミターージュ美術館 (サンクトペテルブルク、ロシア)
- 2014 「東京アートミーティング第5回 新たな系譜学をもとめて 跳躍/痕跡/身体」
東京都現代美術館 (東京)
- 「ロジカル・エモーションー日本現代美術展」
ハウス・コンストルクティヴ美術館 (チューリッヒ、スイス)、クラクフ現代美術館 (ポーランド)、
ザクセンアンハルト州立美術館 (ドイツ)
- 2017 「Forms and Effects: Ukiyo-e to Anime」
The Berrie Center Art Galleries, Ramapo College of New Jersey (ニュージャージー、アメリカ)
- 「Re-Born ART Festival」 (宮城)
- 「第9回恵比寿映像祭 マルチプルな未来」 東京都写真美術館 (東京)
- 「Japanorama」 ポンピドゥ・センター・メッセ (フランス)
- 2018 「六本木アートナイト 2018」 (東京)
- 「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ 2018」 (新潟)
- 2019 「世界を開くのは誰だ？」 豊田市美術館 (愛知)
- 「瀬戸内国際芸術祭 2019」 (香川)
- 「Kyoto Graphie 2019」 (京都)
- 2020 「デイヴィッド・シュリグリー/金氏徹平」 Yumiko Chiba Associates (東京)
- 「コレクション 1:越境する線描」 国立国際美術館 (大阪)
- 「ヨコハマトリエンナーレ 2020 光の破片をつかまえる」 横浜美術館 (神奈川)
- 「Turning the Axis of the World」 STPI (シンガポール)
- 「Silver Mist from the Empty Pot, Chihiro Mori/Teppey Kaneuji」
Jane Lombard Gallery (ニューヨーク)
- 2021 「Drawn Together」 Jane Lombard Gallery (ニューヨーク)
- 「ART COLLABORATION KYOTO 2021」 (CMTKとして) 国立京都国際会館 (京都)
- 「Kirikae: From Mono-Ha to Simulationism」 Each Modern (台北、台湾)
- 「Glasstress. Window to the Future」
The State Hermitage Museum (サンクト・ペテルブルグ、ロシア)
- 「村田沙耶香のユートピア_“正常”の構造と暴力 ダイアローグ
デヴィッド・シュリグリー ≡ 金氏徹平」 GYRE GALLERY (東京)
- 「オムニスカルプチャーズ-彫刻となる場所-」 武蔵野美術大学美術館 (東京)
- 2021-22 やんばるアートフェスティバル 2021-2022 (沖縄)
- 2022 「PROJECT ATAMI」 (CMTKとして) ACAO SPA & RESORT LOBBY MUSEUM (静岡)
- 「池上上々日記」 KOTOBUKI PourOver (東京)
- 「Human Behavior」 RICOH ART GALLERY (東京)
- 「KYOTO EXPERIMENT2022」 (CMTKとして) ロームシアター京都 (京都)

- 「ヴォイド オブ ニッポン 77 ー戦後美術史のある風景と反復進行ー」 GYRE GALLERY (東京)
「瀬戸内国際芸術祭 2022」宇野港 (岡山)
「大地のコレクション展」越後妻有清津倉庫美術館 (新潟)
「消しゴム畑 at 池上」KOTOBUKI PourOver (東京)
「Notations in Space」STPI (シンガポール)
「とにかくオブジェとコラージュ」桃青京都ギャラリー (京都)
- 2022-23 「ねてるひとと、おきてるひと (The sleeping one, and the one that is awake)」PARCEL (東京)
- 2023 「Remembrance」ESLITE GALLERY (台北)
YANBARU ART FESTIVAL 2022-2023 (沖縄)
「やなむはむだはむ展『かいき！はいせつとし』」太田市美術館図書 (群馬)
「THE CUTENESS FACTOR」ルートヴィヒ美術館 (ブダペスト、ハンガリー)
「2023-I コレクション・ハイライト+コレクション・リレーションズ」広島市現代美術館 (広島)
「MOT コレクション」東京都現代美術館 (東京)
「金氏徹平 森千裕」KYOTO INTERCHANGE (京都)
- 2023-24 「ZHANG DING & TEPPEI KANEUJI : TWO CLUBS」HOW Art Museum (上海、中国)
- 2024 「2024 コレクション展 1 うつしとる 一光・時間・情報・動き」高松市美術館 (香川)

受賞歴

- 2002 京都市立芸術大学制作展 奨励賞
2010 咲くやこの花賞 美術部門
2013 京都市芸術新人賞 (彫刻)
2015 第 33 回京都府文化賞 奨励賞
2018 第 29 回タカシマヤ美術賞

以上

鬼頭健吾 Kengo Kito

関連 URL ・ SNS 情報

Web: <https://kengokito.com/>

Instagram: [@kitokengo](#)

1977 年、愛知県に生まれる。2008–09 年、五島記念文化財団の助成を受けニューヨークに滞在。2010–11 年、文化庁新進芸術家海外研修員としてベルリンに滞在。その後 2015 年まで同地を拠点に創作を行う。フラフープやシャンプーボトルなど、工業製品の現代的なカラフルさと、生命体や宇宙を感じさせるような広がりを融合させた作品で国内外から高い評価を受けている。主なパブリックコレクションに国立国際美術館、豊田市美術館、高松市美術館、原美術館ほか。現在は群馬県高崎市を拠点に活動し、京都芸術大学教授も務める。

略歴

- 1977 愛知県生まれ
- 2001 名古屋芸術大学 絵画科洋画コース卒業
- 2003 京都市立芸術大学大学院 美術研究科油画専攻修了

主な個展・二人展

- 1999 「star maker」 アートスペース dot (愛知)
- 2003 「粒」 mori yu gallery (京都)
- 2004 「新作展」 KENJI TAKI GALLERY (愛知)
「quasar」 GALLERY KOYANAGI (東京)
「cosmic dust」 KENJI TAKI GALLERY (東京)
- 2006 「shimmer」 KENJI TAKI GALLERY (愛知)
「鬼頭健吾+田幡浩一」 トーキョーワンダーサイト渋谷 (東京)
- 2007 「luminary」 KENJI TAKI GALLERY (愛知)
「鬼頭健吾/tower」 ギンザ・コマツ アートスペース (東京)
- 2008 「cosmic elements」 Esplanade (シンガポール)
- 2009 「flimsy royal」 Humanities Gallery (ニューヨーク、アメリカ)
- 2010 「Kengo Kito - Cosmic Surfing」 大和日英基金ギャラリー (ロンドン、英国)
「変成態—リアルな現代の物質性 (Vol.7 鬼頭健吾)」 ギャラリー α M (東京)
「color colour」 KENJI TAKI GALLERY (愛知)
- 2012 「carousel」 KENJI TAKI GALLERY (愛知)
- 2013 「cosmic hill」 A Sin Place (ベルリン、ドイツ)
「Kengo Kito:untitled(hula-hoop)」 ジョイス・ギャラリー (北京、中国)
- 2014 「SIMULACRUM」 WOOSON ギャラリー (テグ、韓国)
「鬼頭健吾展 active galaxy」 ガトーフェスタ ハラダ本社ギャラリー (群馬)

- 「cosmic surface」 ケンジタキギャラリー（東京）
- 2015 「Migration 回遊」 群馬県立近代美術館（群馬）
「鬼頭健吾展 Symbiosis 共生」 ガトーフェスタハラダ本社ギャラリー（群馬）
「Reflection 反映」 KENJI TAKI GALLERY（東京）
現代ドローイング国際芸術祭「KENGO KITO STRUCTURES」 BARBARA（ポーランド）
- 2016 「Kengo Kito」 西武渋谷店 B 館 8F オルタナティブスペース（東京）
「Time Travel - Tokyo」 ケンジタキギャラリー（東京）
「KENGO KITO Interstellar」 京都造形芸術大学 Gallery Aube（京都）
- 2017 「YCC Temporary 鬼頭健吾」 YCC Temporary（神奈川）
「cart wheel galaxy」 rin art association（群馬）
「MULTIPLE STAR I-III」 ハラ ミュージアムアーク（群馬）
- 2018 「color color color color color color」 ガトーフェスタハラダ本社ギャラリー（群馬）
「cart wheel galaxy」 ガトーフェスタハラダ本社ギャラリー（群馬）
- 2019 「Light in Emptiness」 rin art association（群馬）
- 2020 「Full Lightness」 京都市京セラ美術館（京都）
- 2021 「Reconnecting」 JAPAN HOUSE Gallery（ロサンゼルス、アメリカ）
「big rip」 rin art association（群馬）
- 2022 「Lines 鬼頭健吾展」 神奈川芸術劇場アトリウム（神奈川）
- 2023 「線について」 銀座蔦屋書店 GINZA ATRIUM（東京）

主なグループ展

- 2003 「群馬青年ビエンナーレ'03」 群馬県立近代美術館（群馬）
- 2004 「日本の新進作家 vol.3 新花論」 東京都写真美術館（東京）
- 2005 「ベリーベリーヒューマン」 豊田市美術館（愛知）
- 2006 「福武ハウス in 越後妻有アートトリエンナーレ 2006」 旧名ヶ山小学校（新潟）
「VOCA 展 2006 現代美術の展望—新しい平面の作家たち」 上野の森美術館（東京）
- 2007 「六本木クロッシング 2007 未来への脈動」 森美術館（東京）
- 2009 「No Man's Land 創造と破壊@フランス大使館」 在日フランス大使館（東京）
「天球極 漆とアートの饗宴」 豊田市美術館、高橋節郎館（愛知）
- 2010 「五島記念文化財団 20 周年記念展 美の潮流」 Bunkamura ザ・ミュージアム（東京）
「台頭するアジアのアーティスト達」 金大中コンベンションセンター（光州、韓国）
- 2011 「世界制作の方法」 国立国際美術館（大阪）
「アーティスト・ファイル 2011—現代の作家たち」 国立新美術館（東京）
「Art in an Office—印象派・近代日本画から現代絵画まで」 豊田市美術館（愛知）
- 2012 「カルペ・ディエム 花として今日を生きる」 豊田市美術館（愛知）
- 2013 「Mono No Aware, Beauty of Things. Japanese Contemporary Art」
エルミタージュ美術館（サンクトペテルブルク、ロシア）
- 2014 「COSMOS/INTIME La Collection Takahashi」 パリ日本文化会館（パリ、フランス）

- 2016 「思い出の中のゆらめきーJコレクション」 名古屋市美術館（愛知）
「想像の構築と制限」 セゾンアートギャラリー（東京）
- 2017 「アートはサイエンス」 軽井沢ニューアートミュージアム（長野）
- 2018 「六本木アートナイト 2018」 国立新美術館（東京）
「ARTISTS' FAIR KYOTO」 京都文化博物館別館（京都）
- 2019 「つなぐ・比べる」 富岡市立美術博物館（群馬）
「ギホウのヒミツ」 高松市美術館（香川）
「アイチアートクロニクル展」 愛知県美術館（愛知）
- 2020 「絵画のミカタ」 群馬県立近代美術館（群馬）
- 2021 「DOMANI・明日展」 国立新美術館（東京）
「居場所はどこにある？」 東京芸術大学大学美術館（東京）
「今どきアート」 富岡市立美術博物館・福沢一郎記念美術館（群馬）
「生の軌跡」 アーツ前橋（群馬）
- 2022 「色と感情」 POLA MUSEUM ANNEX（東京）

主な受賞歴

- 2006 アリスの不思議の庭「オブジェ・空間インスタレーションコンペティション」 グランプリ受賞
- 2008 第19回五島記念文化賞 美術新人賞受賞

以上

顧 剣亨 Kenryou Gu

関連 URL ・ SNS 情報

Web: <https://www.kenryougu.com/>

Instagram: [@kenryougu_realaccount](#)

1994 年、京都府に生まれ、上海で育つ。京都造形芸術大学（現・京都芸術大学）現代美術・写真コース卒業。大学在学中にフランス・アルル国立高等写真美術学校へ留学。世界各地を移動することで身体に蓄積される様々な風景やイメージの情報を、「写真」という装置を拡張的に用いることで、変換・再構成して作品化するという、独自の表現方法を探究している。大学卒業の年、京都国際写真祭 KYOTOGRAPHIE2018 において、KG+Award グランプリを受賞。2023 年に金沢 21 世紀美術館で開かれた個展では、「デジタルウィービング」と名付けられた複数の写真をピクセルごとに編み込む独自の手法を用い、高さ 5 メートル、幅 9 メートルという大型の写真作品を展示し注目を集めた。

略歴

- 1994 京都府生まれ
- 2018 京都造形芸術大学（現・京都芸術大学） 現代美術・写真コース卒業

主な個展

- 2018 「Utopia」 京都造形芸術大学卒業制作展（京都）
「Utopia」（京都国際写真祭 KYOTOGRAPHIE）元・京都市立淳風小学校（京都）
「Wu-Mai」 ワコールスタディホール京都（京都）
「Utopia」 Gallery Water（東京）
- 2019 「Inbetweening」 サンワカンパニー東京ショールーム（東京）
「15972 sampling」 Sfera（京都）
- 2021 「A PART OF THERE IS HERE」 YUKIKOMIZUTANI GALLERY（東京）
「Asymptotic Harbor」 岩倉 AA（京都）
- 2022 「I saw as I saw」 千丸屋本店（京都）
- 2023 「アペルト 18：顧剣亨 陰/残像」 金沢 21 世紀美術館（石川）
- 2024 「Dimensions Unseen」 ユミコチバアソシエイツ（東京）

主なグループ展

- 2014 「Hi, my name is...」 食堂ルインズ（京都）
- 2015 「Uryuyama?」 京都造形芸術大学ギャラリー・オーブ（京都）
- 2016 「Kyoto Survey Project」 ABSship（京都）
「Artotheque Selection」 D&Department（京都）
- 2017 「Open House」 青春画廊（京都）

- 2018 「Utopia_i」 アートアワードトーキョー丸の内（東京）
- 2019 「Today is」 ソニースクエア渋谷プロジェクト（東京）
- 2020 「2020061620200726」 六本木蔦屋書店（東京）
「有楽町アートサイトプロジェクト」 有楽町国際ビル（東京）
「ENCOUNTERS」 ANB Tokyo（東京）
- 2021 「Collision point on the dimensions」 The 5th Floor（東京）
「constellation #02」 rin art association（群馬）

主な受賞歴

- 2018 京都造形芸術大学卒業制作展 学長賞
京都国際写真祭 KYOTOGRAPHIE KG+Award グランプリ
アートアワードトーキョー丸の内 小山登美夫賞
- 2019 sanwacompany Art Award / Art in the house グランプリ

以上

古賀 勇人 Hayato Koga

関連 URL ・ SNS 情報

Web: <https://hayatokoga.com/>

Instagram: [@hayato_koga_artist](#)

X: [@hayatokoga_art](#)

1983 年、熊本県に生まれる。文化服装学院在学中、マーク・ロスコのシーグラム壁画と出会ったことをきっかけに美術の道に進む。文化学院美術科在学中、写真作家としてのキャリアをスタート。2005 年より都市の光景をモチーフに、高層ビルの林立する都会の景色を写真におさめ、その図像を反転して組み合わせることで、シンメトリーの造形にした作品を発表している。また、2007 年より「水」をモチーフにした作品の発表を開始している。

略歴

- 1983 熊本県出身
- 2007 文化服装学院 二部服装科卒業
- 2008 文化学院 美術科卒業

主な個展・二人展

- 2008 「水 Water」りそな銀行 東京ミッドタウン支店（東京）
- 2009 「水 Water」ギャラリー枝香庵（東京）
- 2010 「水 Water」T.Y.HARBOR BREWERY（東京）
「水 Water」月光荘画材店（東京）
- 2011 「水 Water」ギャラリー枝香庵（東京）
- 2012 「Power/Water/In the water」プチ・フウユギャラリー（東京）
- 2014 「IN THE WATER & UNNATURAL NATURE」ギャラリー枝香庵（東京）
- 2015 「IN THE WATER & UNNATURAL NATURE」nos org shibuya（東京）
- 2017 「古賀勇人写真展」ギャラリー枝香庵（東京）
- 2018 「古賀勇人写真展」ギャラリー枝香庵（東京）
- 2019 四方謙一・古賀勇人 二人展「reflection」西武渋谷店 オルタナティブスペース（東京）
- 2021 「SANCTUARY | urbanized nature 古賀勇人 NFT アート展」Shinwa Wise Holdings（東京）
「都市と自然のカムヤシロ」そごう千葉店アートスペース（千葉）
- 2022 「都市と自然のカムヤシロ」ギャラリー和田（東京）
「SANCTUARY | urbanized nature」そごう横浜店（神奈川）
「SANCTUARY | urbanized nature」西武渋谷店オルタナティブスペース（東京）
- 2023 「つづけ、もっとつづけ。」銀座蔦屋書店（東京）
- 2023 「SANCTUARY | urbanized nature」阪急メンズ大阪コンテンポラリーアートギャラリー（大阪）

2024 「東京/パリ/花火」新宿高島屋美術画廊（東京）

主なグループ展

- 2007 「トーキョーワンダーウォール」東京都現代美術館（東京）
- 2014 「STRAY BOOKS」RED GALLERY（ロンドン、英国）
- 2015 「New Japanese Photography」DOOMED GALLERY（ロンドン、英国）
「Shashin Zine Fest NYC」RESOBOX Gallery（ニューヨーク、アメリカ）
- 2016 「アートを借りる展。～ART STAND EXHIBITION vol.2～」寺田倉庫 T-Art Gallery（東京）
- 2017 「はじめ展」ギャラリー枝香庵（東京）
- 2018 「SHIBUYA STYLE vol.12」西武渋谷店美術画廊（東京）
- 2019 「nine colors」そごう徳島店美術画廊（徳島）
- 2020 「y-Generation6」西武渋谷店美術画廊（東京）
- 2021 「y-Generation7」西武渋谷店美術画廊（東京）
- 2022 「Trans ⇄ Form ー変容シテユクカタチー 古賀勇人 林茂樹 藤田朋一」
日本橋高島屋ギャラリーX（東京）

主な受賞歴

- 2008 「theory art award」金賞
第 1, 2, 9 回 三菱商事アート・ゲート・プログラム 入選
「GEISAI museum #2」森佳子審査員個人賞
- 2009 「ALBION art award」入賞
- 2022 「WATOWA ART AWARD」入賞

以上

小林 正人 Masato Kobayashi

関連 URL ・ SNS 情報

Web: <http://www.masart.jp/>

Web: <https://shugoarts.com/artist/51/>

1957 年、東京に生まれる。東京藝術大学美術学部油画専攻を卒業後、80 年代半ばより絵画の在り方を独自に探究する作品を発表。「白いキャンバスを木枠に張ってから描き始めるのでは遅い」として、絵の具をチューブから直接手にとり、キャンバスを張りながら描くことで、イメージと空間を同時に立ち上げていくスタイルを確立する。1996 年、サンパウロ・ビエンナーレに日本代表として参加し、翌 97 年、現代美術のキュレーター、ヤン・フートの招きによりベルギーのアントワープに拠点を移す。2006 年に帰国後は、広島県の鞆の浦にアトリエを構え制作を行っている。主なパブリックコレクションに、東京国立近代美術館、東京都現代美術館、セゾン現代美術館、S.M.A.K.、アントワープ市立現代美術館ほか。近年は自伝小説『この星の絵の具』を執筆し、2018 年に上巻、20 年に中巻を上梓した。

略歴

1957 東京生まれ
東京および福山在住

個展

- 1985 「絶対絵画」鎌倉画廊（東京）
- 1986 「第 2 回新世代展」佐谷画廊（東京）
- 1989 「Masato Kobayashi 1987-88」佐谷画廊（東京）
- 1991 「空戦」佐谷画廊（東京）
- 1992 「絵画の子」佐谷画廊（東京）
- 1993 「新作展」佐谷画廊（東京）
- 1995 「新作ペインティング&ドローイング」佐谷画廊（東京）
- 1997 「新作展」佐谷画廊（東京）
- 1998 「夜に」佐谷画廊（東京）
- 2000 佐賀町エキジビットスペース（東京）
「小林正人展」宮城県美術館（宮城）
- 2001 「A Son of Painting」S.M.A.K. /アントワープ市立現代美術館（アントワープ、ベルギー）
「Another “Son of Painting”」S. Cole Gallery（アントワープ、ベルギー）
- 2002 「Paintings in Situ」Rice Gallery by G2（東京）
- 2004 「星の絵の具」シュウゴアーツ（東京）
「Starry Paint」テンスタ・クンストハーレ（ストックホルム、スウェーデン）
- 2006 「The Nude」シュウゴアーツ（東京）

- 「小林正人 初期作品 1982-1992」 シュウゴアーツ (東京)
「光」 高橋コレクション (東京)
- 2007 「ライトペインティング」 シュウゴアーツ (東京)
- 2009 「この星の絵の具」 高梁市成羽美術館 (岡山)
- 2010 「LOVE もっとひどい絵を！ 美しい絵 愛を口にする以上」 シュウゴアーツ (東京)
- 2012 「LOVE もっとひどい絵を！ 美しい絵 愛を口にする以上 2012, spring」 シュウゴアーツ (東京)
「ART TODAY 2012 弁明の絵画と小林正人」 セゾン現代美術館 (軽井沢)
- 2013 「絵画、それを愛と呼ぶことにしよう vol.9 小林正人+杉戸洋」 ギャラリーαM (東京)
- 2014 「名もなき馬」 シュウゴアーツ (東京)
- 2016 「Thrice Upon A Time」 シュウゴアーツ (東京)
- 2019 「画家とモデル」 シュウゴアーツ (東京)
- 2021 シュウゴアーツオンラインショー「この星の絵の具」 シュウゴアーツウェブサイト
「この星の家族」 シュウゴアーツ (東京)
- 2023 千葉市美術館コレクション選 特集「小林正人 空戦・絵画の子」 千葉市美術館 (千葉)
「自由について」 シュウゴアーツ (東京)
- 2024 Upcoming Exhibition: 「小林正人展」 rin art association (群馬)
Upcoming Exhibition: 「小林正人展」 シュウゴアーツ (東京)

グループ展

- 1986 「開館 5 周年記念 現代日本の美術 3 戦後生まれの作家たち (第 1 期)」 宮城県美術館 (宮城)
- 1987 「現代のイコン かみとひとものときの中に」 埼玉県立近代美術館 (埼玉)
- 1989 「現代美術への視点 色彩とモノクローム」 東京国立近代美術館 (東京) /
京都国立近代美術館 (京都)
「ドローイングの現在」 国立国際美術館 (大阪)
- 1991 「色相の詩学展 現代美術・平面からのメッセージ」 川崎市市民ミュージアム (神奈川)
- 1992 「TEMPUS VICTIM 生きられた時間: MTM コレクションの 80 年代」 エスパス小原 (東京)
「筆あとの誘惑—モネ、栖鳳から現代まで」 京都市美術館 (京都)
- 1994 「VOCA 展 '94—新しい平面の作家たち」 上野の森美術館 (東京)
「光と影: うつろいの詩学」 広島市現代美術館 (広島)
- 1995 「VOCA 展 '95 —新しい平面の作家たち」 上野の森美術館 (東京)
「視ることのアレゴリー 1995: 絵画・彫刻の現在」 セゾン美術館 (東京)
「VOCA 展 '94 '95 受賞作品展」 第一生命南ギャラリー (東京)
「現代美術への視点 絵画、唯一なるもの」 東京国立近代美術館 (東京) / 京都国立近代美術館 (京都)
- 1996 「гент現代美術館展」 オランダ協会 (パリ、フランス)
「サンパウロビエンナーレ」 (サンパウロ、ブラジル)
「赤い扉」 gent現代美術館 (gent、ベルギー)
- 1999 「開館記念展」 S.M.A.K. / gent市立現代美術館 (gent、ベルギー)
「思わぬ発見」 Douvie hoeve, ワトゥー (ベルギー)

- 2000 「Over the Edges」 S.M.A.K. / ゲント市立現代美術館（ゲント、ベルギー）
 「A CASA DI…（…の家へ）」 ミケランジェロ・ピストレット財団（ビエラ、イタリア）
 「Epifanie - Actuele Kunst en Religie」（レーベン、ベルギー）
- 2001 「先立未来」 ルイジペッチ現代美術センター（プラトー、イタリア）
- 2002 「未完の世紀：20世紀がのこすもの」 東京国立近代美術館（東京）
 「エモーショナル・サイト」 佐賀町食糧ビルディング（東京）
- 2003 「Gelijk het leven is」 Vlaamse opera Gent（ゲント、ベルギー）
 「ティラナ・ビエンナーレ：U-Topos」 ティラナ国立美術館（ティラナ、アルバニア）
- 2004 「アートがあれば WHY NOT LIVE FOR ART」 東京オペラシティアートギャラリー（東京）
- 2006 「サマーショー」 S.M.A.K. / ゲント市立現代美術館（ゲント、ベルギー）
 「MOT コレクション」 東京都現代美術館（東京）
 「空にふれるまでのあいだ」 ヴァンジ彫刻庭園美術館（静岡）
- 2007 「ポートレートセッション」 広島市現代美術館（広島）
 「天空の美術」 東京国立近代美術館（東京）
- 2008 「ムーンライトショー」 @ JOTA CASTRO STUDIO（ブリュッセル、ベルギー）
 「シュウゴアーツショー」 シュウゴアーツ（東京）
- 2009 「現代美術の展望 12人の地平線」 東京ステーションギャラリー（東京）
 「The Biennale Knokke Zoute 2009」 クノック（ベルギー）
 「Fair Market」 Fruit and Flower Deli（ニューヨーク、アメリカ）
- 2010 「The Burden of Representation: Abstraction in Asia Today」 Osage kwun tong（香港、上海）
 「MOT コレクション 入り口はこちら…なにがみえる？」 東京都現代美術館（東京）
 「メモリー／メモリアル 65年目の夏に」 広島-ポーランド特別展示、広島市現代美術館（広島）
 「ドロ잉 イン ザ ダーク」 東京国立近代美術館（東京）
 「Mediations Biennale」 ポズナン国立美術館（ポズナン、ポーランド）
 「Living with Art-Contemporary Art from Japan and Taiwan」 Yi&C. Contemporary Art（台北、台湾）
- 2012 「自由になれるとき 現代美術はこんなにおもしろい！」 岡山県立美術館（岡山）
 「2nd Western China International Art Biennale」 TianYe Art Museum（銀川、中国）
 「LOVE LOVE SHOW」 鞆の津ミュージアム（広島）
- 2013 「Re: Quest—Japanese Contemporary Art since the 1979s」 ソウル大学校美術館（ソウル、韓国）
 「ひとの姿／人のかたち」 新潟県立万代島美術館（新潟）
 「ヴァンジ彫刻庭園美術館 コレクション展 この星のうえで」 ヴァンジ彫刻庭園美術館（静岡）
 「千紫万紅—いつも現代」 セゾン現代美術館（長野）
 「プレイバック・アーティスト・トーク」 東京国立近代美術館（東京）
 「高橋コレクション展—マインドフルネス！」 鹿児島県霧島アートの森（鹿児島） /
 札幌芸術の森美術館（北海道）
 「アートがあれば II—9人のコレクターによる個人コレクションの場合」
 東京オペラシティアートギャラリー（東京）
- 2014 「RE: PAINTED | 'PAINTING' FROM THE COLLECTION」 S.M.A.K.（ゲント、ベルギー）

- 「From a Quiet Distance」 PARKHAUS im Malkastenpark (デュッセルドルフ、ドイツ)
 「絵画の輪郭」 シュウゴアーツ (東京)
- 「DOMMUNE University of the ArtsTokyo Arts CirculationTHE 100 JAPANESE CONTEMPORARY ARTISTS」 DOMMUNE (東京) / アーツ千代田3331 (東京)
- 2015 「シュウゴアーツショー」 シュウゴアーツ (東京)
 「高橋コレクション展 ミラー・ニューロン」 東京オペラシティ アートギャラリー (東京)
 「セゾン現代美術館コレクション展 手と目」 セゾン現代美術館 (長野)
 「ライブドローイング『横浜絵巻』 石田尚志、O JUN、小林正人」 横浜美術館前広場 (神奈川)
 「MOMAT コレクション 誰がためにたたかう？」 東京国立近代美術館 (東京)
 「Pass」 Mullem, Huise, Wannegem Lede (ベルギー)
 「シュウゴアーツ：毎週末の画廊、三宿SUNDAYの隣」
 シュウゴアーツ ウィークエンドギャラリー (東京)
- 2016 「村上隆のスーパーフラット・コレクション—蕭白、魯山人からキーファーまで」
 横浜美術館 (神奈川)
 「リニューアルオープン記念 高松市美術館コレクション展
 —いま知りたい、私たちの現代アート」 高松市美術館 (香川)
 「TABLE OF THREE」 シュウゴアーツ ウィークエンドギャラリー (東京)
 「生きとし生けるもの」 ヴァンジ彫刻庭園美術館 (静岡)
 「恋する現代アート」 セゾン現代美術館 (長野)
- 2017 「美藝礼賛—現代美術も古美術も」 セゾン現代美術館 (長野)
 「蜘蛛の糸」 豊田市美術館 (愛知)
 「鉄道絵画発→ピカソ行 コレクションのドア、ひらきます」 東京ステーションギャラリー (東京)
 「紐帯展 日中現代芸術家交流会」 寧波美術館 (浙江、中国)
 「色で楽しむ現代美術」 千葉市美術館 (千葉)
 「シュウゴアーツショー 1980年代から2010年代まで」 シュウゴアーツ (東京)
 「高橋コレクション・マインドフルネス2017」 山形美術館 (山形)
 「三沢厚彦 アニマルハウス謎の館」 渋谷区立松濤美術館 (東京)
 「あら まほし Art, anything to access a world」 東京都渋谷公園ギャラリー (東京)
- 2018 「シュウゴアーツショー」 シュウゴアーツ (東京)
 道後オンセナート 2018 「アニマルハウス in 道後」 振鷺亭 (愛媛)
 「どう生きるか #2 六本木にて」 シュウゴアーツ (東京)
 「三沢厚彦 ANIMALS IN TOYAMA」 富山県美術館 (富山)
 「ニュー・ウェイブ 現代美術の80年代」 国立国際美術館 (大阪)
 「バブルラップ」 熊本市現代美術館 (熊本)
- 2019 「シュウゴアーツショー」 シュウゴアーツ (東京)
 「百年の編み手たち—流動する日本の近現代美術—」 東京都現代美術館 (東京)
 「MOT コレクション第2期 ただいま／はじめまして」 東京都現代美術館 (東京)
 「MOMAT コレクション」 東京国立近代美術館 (東京)

- 「ここからむこうまで 広島から発信する現代アート特別展」尾道市立美術館（広島）
 「星座と出会い系、もしくは絵画とグループ展について」パープルルームギャラリー（神奈川）
 「シュウゴアーツショー」シュウゴアーツ（東京）
- 2020 「コレクション展示 第IV期」宮城県立美術館（宮城）
 「MOMAT コレクション」東京国立近代美術館（東京）
 「燦三と照りつける太陽で、あつさ加わり体調を崩しがちな季節ですが、規則正しく健やか奈日々をお過ごしください。展」西武渋谷店 B 館 8 階＝美術画廊・オルタナティブスペース（東京）
 「シュウゴアーツショー」シュウゴアーツ（東京）
 「生命の庭 8人の現代作家が見つけた小宇宙」東京都庭園美術館（東京）
 「シリーズミュージアムとの創造的対話 03 何が価値を創造するのか？」鳥取県立博物館（鳥取）
- 2021 「神宮の杜芸術祝祭：気韻生動—平櫛田中と伝統を未来へ継ぐものたち」明治神宮 宝物殿（東京）
 「MOMAT コレクション 特別編 ニッポンの名作 130 年」東京国立近代美術館（東京）
 「シュウゴアーツショー」シュウゴアーツ（東京）
 「MOT コレクション Journals 日々、記す vol.2」東京都現代美術館（東京）
- 2022 「シュウゴアーツショー」シュウゴアーツ（東京）
 「MASATO KOBAYASHI + KENGO KITO」MtK Contemporary Art（京都）
- 2023 「うららか絵画祭」HB. Nezu ほか 8 会場（東京）
 「三沢厚彦 ANIMALS/Multi-dimensions」千葉市美術館（千葉）
 「山本篤・映像小屋/ ShugoArts Show」シュウゴアーツ（東京）
 「あなたのアートを誰に見せますか？」東京藝術大学大学美術館 陳列館（東京）
 TAKEUCHI COLLECTION 「心のレンズ」展、WHAT MUSEUM（東京）
 Art Week Tokyo FOCUS 「平衡世界 日本のアート、戦後から今日まで」アーティスティック
 ディレクター：保坂健二郎、大倉集古館（東京）

受賞

1994 VOCA 奨励賞

パブリックコレクション

国内

宮城県美術館（宮城）
 いわき市立美術館（福島）
 宇都宮美術館（栃木）
 セゾン現代美術館（長野）
 千葉市美術館（千葉）
 第一生命保険株式会社（東京）
 東京国立近代美術館（東京）
 東京都現代美術館（東京）
 東京ステーションギャラリー（東京）

新潟県立万代島美術館（新潟）
ヴァンジ彫刻庭園美術館（静岡）
高松市美術館（高松）

国外

S.M.A.K. / ゲント市立現代美術館（ベルギー）

プライベートコレクション

大和プレス / 大和ラヂエーター製作所（広島）
高橋龍太郎コレクション（東京）

出版

2018 「この星の絵の具 [上] 一橋大学の木の下で」 アートダイバー
2020 「この星の絵の具 [中] ダーフハウス通り 52」 アートダイバー

以上

ライアン・サリバン Ryan Sullivan

関連 URL ・ SNS 情報

Web: <https://www.sadiecoles.com/artists/43-ryan-sullivan/>

1983 年、アメリカのニューヨークに生まれる。2005 年にロード・アイランド・スクール・オブ・デザインを卒業後、2010 年に MOMA P.S.1 で開催されたグループ展に参加し、2015 年には ICA マイアミで個展を開催。サリバンはレジンキャストを使った独自の技法で作品を制作しており、アメリカの抽象現主義の系譜に位置付けられています。ニューヨーク近代美術館、サンフランシスコ近代美術館、ハマー美術館、ロサンゼルス・カウンティ美術館ほか、アメリカの主要美術館に作品が収蔵されている。日本では 2020 年に THE CLUB で個展が初開催された。現在、ニューヨークを拠点に活動している。

略歴

- 1983 アメリカ、ニューヨーク生まれ
- 2005 ロードアイランド・スクール・オブ・デザイン（アメリカ） 卒業

主な個展

- 2012 Maccarone（ニューヨーク、アメリカ）
- 2013 Hydra Workshop（イドラ、ギリシャ）
Sadie Coles HQ（ロンドン、英国）
- 2015 ICA Institute of Contemporary Art（マイアミ、アメリカ）
- 2016 Sadie Coles HQ（ロンドン、英国）
- 2017 「Only Connect」 Maccarone（ニューヨーク、アメリカ）
- 2019 「one minute's music, one minute's time」 Sadie Coles HQ（ロンドン、英国）
「The Chamber (or Wall of Sound)」
Adrian Rosenfeld Gallery in collaboration with Sadie Coles HQ（サンフランシスコ、アメリカ）
- 2020 The Club（東京）
- 2022 Sadie Coles HQ（ロンドン、英国）
「rosyendpost」 18 South Street（ニューヨーク、アメリカ）
125 Newbury（ニューヨーク、アメリカ）
- 2023 Sadie Coles HQ（ロンドン、英国）
- 2024 BLUM（ロサンゼルス、アメリカ）

主なグループ展

- 2010 「Greater New York 2010: Rotation 4」 MoMA/P.S.1（ニューヨーク、アメリカ）
- 2012 「Alone Together」 Rubell Family Collection（フロリダ、アメリカ）
- 2017 「Satellite TV」 Tetsuo's Garage（日光）

2022 「Aspen Art Week」 Aspen Art Museum (アスペン、アメリカ)

以上

白川 昌生 Yoshio Shirakawa

関連 URL ・ SNS 情報

Web: <https://rinartassociation.com/artist/630>

1948 年、福岡県に生まれる。1970 年に渡欧し、フランス及びドイツで哲学と美術を学ぶ。1981 年、国立デュッセルドルフ芸術アカデミーを卒業。同校在学中、ヨーゼフ・ボイスの「社会彫刻」の思想に強く影響を受ける。1983 年に帰国し、群馬を拠点に立体作品や絵画を制作。1993 年には地域と美術をつなぐ NPO 法人「場所・群馬」を創設する。ダダイストとしての姿勢を根底に、地域の歴史や文化に基づいた表現活動を行う。また、『美術、市場、地域通貨をめぐって』(2001)、『西洋美術史を解体する』(2011)、『贈与としての美術』(2014) といった著作を通じて、美術についての言説も精力的に展開している。主なパブリックコレクションに、北九州市立美術館、アーツ前橋、東京都現代美術館ほか。

略歴

- 1948 福岡県生まれ
- 1981 デュッセルドルフ芸術アカデミー卒業 (マイスター)

主な個展

- 1983 「赤-彫刻」 アンデパンダン・ギャラリー (東京)
- 1988 「海景」 ギャラリー・シマダ (山口)
- 1990 「Standard-Japan」 モリス・ギャラリー (東京)
- 1991 「万物は円環する」 ヒルサイド・ギャラリー (東京)
「私-特異点-日本」 ギャラリー現 (東京)
- 1992 「円環-世界」 佐賀町エキシビット・スペース (東京)
- 1993 「共振体」 モリス・ギャラリー (東京)
- 1994 「日本人ですか 2」 北関東造形美術館 (前橋)
「SHIRAKAWA'94 (日本美術試作-日本人ですか 1)」 佐賀町エキジット・スペース (東京)
- 1995 「勝景」 アート・フロント・ギャラリー、ヒルサイド・ギャラリー (東京)
- 1996 「日本人ですか 3」 モリス・ギャラリー (東京)、ギャラリー現 (東京)
- 1997 「絵画論へー高橋由一を讃えて」 モリス・ギャラリー (東京)
「さまざまな眼 87 白川昌生展共同の内へ外へ」 かわさき IBM 市民ギャラリー (川崎)
「日本人ですか 4」 北関東造形美術館 (前橋)
- 1999 「見ることから」 ギャラリー現 (東京)
「オープンサークル・プロジェクト」 モリス・ギャラリー
「仮想, 再現」 モリス・ギャラリー (東京)、Key ギャラリー (東京)
- 2001 「サイクル」 スペース LIVE (東京)
「美術, 地域通貨」 モリス・ギャラリー (東京)

- 2002 「交換、循環、スナップボタン」モリス・ギャラリー（東京）
「白川昌生展」ギャラリースペース・パウゼ（東京）
- 2003 「いただきます/ごちそうさま」モリス・ギャラリー（東京）
「サチ子の夢」ノイエス朝日（群馬）
- 2004 「想起の形」ギャラリー現（東京）
- 2005 「17747」スペース LIVE（東京）
「白川昌生展—渋川ぶらっとフォーム計画」渋川市美術館・桑原巨守彫刻美術館（群馬）
- 2007 「3×3×3×3」ギャラリー現（東京）
「ニンフの通路」渋川 AIS（群馬）
「白川昌生と『フィールド・キャラバン計画』」群馬県庁昭和庁舎（群馬）
- 2008 「ローズプリンセス」Yaman's（群馬）
「白川昌生展 1974→ストラスブルクからパリへ」ノイエス朝日（群馬）
- 2009 「白川昌生新作展—どこにもない GUNMA から」ヤマネアートラボヴェーイングルーム（福岡）
- 2010 「エチカ」Yaman's（群馬）
「白川昌生展 まえばし妄想 2010 年」ノイエス朝日（群馬）
- 2011 「白川昌生展 駅家の木馬」ノイエス朝日（群馬）
- 2012 「白川昌生展 Step out」ノイエス朝日（群馬）
- 2014 「白川昌生ダダ、ダダ、ダ地域に生きる想像」アーツ前橋（群馬）
- 2016 「新作彫刻展—Dark Light」ガトーフェスタ ハラダ（群馬）
「資本空間—スリー・ディメンショナル・ロジカル・ピクチャーの彼岸」gallery αM（東京）
- 2017 「Coyote」Maki Fine Arts（東京）
- 2018 「消された記憶～長崎/群馬～」CONCEPT SPACE（群馬）
「消された記憶～鳥取～」Ais Gallery（群馬）
- 2019 「夏の光」Maki Fine Arts（東京）
- 2022 「エネアデスのほうへ」rin art association（群馬）
「佐賀でダダダダか」kenakian（佐賀）
- 2023 「アートのための場所づくり 1970 年代から 90 年代の群馬におけるアートスペース」
群馬県立近代美術館（群馬）

主なグループ展

- 1985 「空間の音色展」山梨県立美術館（山梨）
- 1986 「第 6 回試行する美術—国際小さな美術展」山梨県立美術館（山梨）
「現代作家'86」北海道立近代美術館（北海道）
- 1987 「ARTIST'S NETWORK EXPANDED '87」福岡県立美術館（福岡）
「ARTIST'S NETWORK '87」佐賀町エキジビット・スペース（東京）
- 1989 「第 9 回ハラ・アニュアル」原美術館（東京）
- 1990 「現代彫刻の歩みⅢ」神奈川県立県民ホールギャラリー（神奈川）
- 1991 「箱の世界展」水戸芸術館（茨城）

- 1993 「第2回 北九州ビエンナーレクロノスの仮面」北九州市立美術館（福岡）
- 1995 「第30回今日の作家展」横浜市民ギャラリー（神奈川）
- 1996 「現代美術と文字」北海道立函館美術館（北海道）
- 2000 「第1回越後妻有アートトリエンナーレ」（新潟）
- 2002 「第7回北九州ビエンナーレ ART FOR SALE アートと経済の恋愛学」北九州市立美術館（福岡）
- 2005 「アルス・ノーヴァー-現代美術と工芸のはざまに展」東京都現代美術館（東京）
- 2006 「記憶・美術—現代アートシーンII」小海町高原美術館（長野）
- 2009 「群馬の美術 1941-2009」群馬県立近代美術館（群馬）
- 2013 「第19回日本国債パフォーマンス・アートフェスティバル」3331 アーツ千代田（東京）
「現代美術展 小田原ビエンナーレ」（神奈川）
「カゼイロノハナ 未来への対話」アーツ前橋（群馬）
- 2016 「あいちトリエンナーレ 2016 - 虹のキャラヴァンサライ」（愛知）
- 2017 「ミュージアムとの創造的対話 01—誰が記憶を所有するのか—」鳥取県立美術館（鳥取）
「群馬の美術」群馬県近代美術館（群馬）
「コレクション+アートの秘密 私と出会う5つのアプローチ」アーツ前橋（前橋）
- 2019 「Oh!マツリ☆ゴト 昭和・平成のヒーロー&ピーポー」兵庫県立美術館（兵庫）
「百年の編み手たち」東京都現代美術館（東京）
「表現の生態系」アーツ前橋（群馬）
- 2021 「生の軌跡」アーツ前橋（群馬）
- 2022 「オルタナティブ!小池一子展 アートとデザインのやわらかな運動」アーツ千代田 3331（東京）

以上

鈴木 知佳 Chika Suzuki

関連 URL ・ SNS 情報

Instagram: [@chika.suzuki.0623](https://www.instagram.com/chika.suzuki.0623)

1982 年、東京都に生まれる。2009 年、東京造形大学大学院美術研究領域絵画専攻修了。場所やものの記憶に関わりながら表現活動が続ける。主な作品シリーズは、路傍・海岸等訪れた地で採取した 1mm 足らずの砂（プラスチックやガラス、陶等かつて何かだった欠片）を色ごとに並べた砂の標本《名付けられた色の終わり名付けられない色のはじまり》や、海辺のプラスチック漂流物がゴミとして燃やされ溶けて砂浜の砂や木と共に冷え固まり陽に波に晒されて風化した「塊」に自然の地形と通じる生成の過程や形状を見だし、マクロレンズで風景写真として写しだすことで人工物の経てきた時間を自然の時間に重ねる《Plastic Landscape》等。

略歴

- 1982 東京都生まれ
- 2009 東京造形大学大学院 造形研究科造形専攻美術研究領域修了

主な個展・二人展

- 2017 「ここに在る不在」 gallery ON THE HILL (東京)
- 2019 「Monologue of the Blank」 鈴木知佳・鈴木のぞみ ex-chamber museum/3331 Arts Chiyoda (東京)
- 2021 鈴木知佳・鈴木のぞみ「時点」 rin art association (群馬)
- 2023 「現代の化石 ― 地球の仮晶」 Bohemian's Guild CAGE (東京)

主なグループ展

- 2007 「KOSHIKI ART PROJECT」 甕島 (鹿児島) *2007-12、16、17 年の各夏に滞在制作
- 2012 「あなたはいま、まさに、ここにいる」 京都芸術センター (京都)
- 2017 「ART VACANCES」 上甕町観光センターながめ施設跡地 (鹿児島)
- 2020 「SICF20 Winners Exhibition」 スパイラルホール (東京)

主な受賞歴

- 2019 SICF20 倉本美津留審査員賞受賞
- 2022 3331ART FAIR コレクター・プライズ 川村文化芸術振興財団賞受賞

以上

滝沢 広 Hiroshi Takizawa

関連 URL ・ SNS 情報

Web: <https://rinartassociation.com/artist/621>

Instagram: [@hiroshitakizawa0118](https://www.instagram.com/hiroshitakizawa0118)

1983 年、埼玉県に生まれる。一枚の鏡に対し、鏡の中の像に焦点を合わせて撮影した写真と、その鏡の表面をハンディスキャナでスキャンした画像を、ひとつのフレームの中に収めた《The Scene (Berlin)》シリーズ、また彫刻の複製図版をハンディスキャナでスキャンし、それをプリントしたコピー紙にコンクリートを流し込み、立体へと戻す《Mood of the Statue》シリーズなど、二次元のイメージと三次元の物質の境界を再検討する作品を制作している。写真と映像作品を組み合わせた、マン・レイへのオマージュである《Tears》では、カメラの AF (オートフォーカス) センサーの反応とともに、水面に反射する像 (虚像) と睡蓮の葉 (実像) の曖昧な関係性を時間軸の中で捉え直すことを試みる。時空間を二次元のイメージへと切断する写真という装置による不可逆的な移行を、さまざまなメディアを通じて可逆的に行き来させている。

略歴

1983 埼玉県生まれ

2006 目白大学人間社会学部心理カウンセリング学科卒業

2021–2022 文化庁新進芸術家海外研修員／ウィーン・オーストリア

現在 ウィーン・オーストリア拠点

主な個展

2014 「figure」実家 JIKKA (東京)

2017 「AVALANCHE/ DUAL」POST (東京)

「AVALANCHE/ SHEET/ DUAL」rin art association (群馬)

2020 「The Scene (Berlin)」rin art association (群馬)

2021 「オブジェに指紋」カスヤの森現代美術館 (神奈川)

2023 「Dis-placement」Ve.Sch (ウィーン、オーストリア)

主なグループ展

2010 「第2回 1_WALL」ガーディアン・ガーデン銀座 (東京)

2011 「月の岩」東京都写真美術館 (東京)

2012 「SPACE CADET Actual Exhibition #1」ターナーギャラリー (東京)

2013 「SPACE CADET Actual Exhibition #2」ターナーギャラリー (東京)

「SHOWCASE #2 curated by minoru shimizu」eN arts (京都)

2014 「anima on photo」UNSEEN (アムステルダム、オランダ)

- 「THE EXPOSED#7」 TOLOT (東京)
- 2015 「hyper-materiality on photo」 TOLOT (東京)
「New Japanese Photography」 DOOMED GALLERY (ロンドン、英国)
- 2016 「unseen photo fair」 (アムステルダム、オランダ)
「AM projects in BKK」 NACC (バンコク、タイ)
「Close to the Edge」 MIYAKO YOSHINAGA (ニューヨーク、アメリカ)
「NEW MATERIAL」 CASEMORE KIRKEBY (サンフランシスコ、アメリカ)
- 2017 「scratch the surface」 Aldama Fabre (ビルバオ、スペイン)
- 2018 「showcase#7 “PHOTO & SCAN”」 eN arts (京都)
- 2019 「VOCA 展 2019 現代美術の展望-新しい平面の作家たち」 上野の森美術館 (東京)
「媒質としてのアンビエント」 Sprout Curation (東京)
「Handless Operative」 CASEMORE KIRKEBY (サンフランシスコ、アメリカ)
- 2020 「New Photographic Objects 写真と映像の物質性」 埼玉県立近代美術館 (埼玉)
- 2022 「WUNDERKAMMER/ Cabinet of Wonders」 The Club Club (ウィーン、オーストリア)
- 2023 「Über das Neue」 Belvedere 21 (ウィーン、オーストリア)
「Supermodels」 SUPER (ウィーン、オーストリア)
「Styles Of Documentation As Narratives Of Truth」 Foto Wien (ウィーン、オーストリア)
「Grit in the Eye, Stone in the Shoe」 Courtney Jaeger (バーゼル、スイス)

主な受賞歴

- 2010 「第2回 1_WALL」展 入選
- 2011 「写真新世紀」佳作 (清水穰選)
- 2015 「Aperture photobook award 2015 as first book award」 入選
- 2019 「VOCA 展 2019 現代美術の展望-新しい平面の作家たち」 入選

以上

アレックス・ダ・コルテ Alex Da Corte

関連 URL・SNS 情報

Web: <http://alexdacorte.com/>

アレックス・ダ・コルテ（1980年ニュージャージー州カムデン生まれ）は、2010年にイェール大学（コネチカット州ニューヘイブン）で彫刻のMFA（美術修士号）を取得し、2004年にはフィラデルフィアのアーツ大学で版画および美術のBFA（美術学士号）を取得。彼はビデオ、パフォーマンス、インスタレーション、絵画、彫刻など幅広いメディアで活動するコンセプチュアルアーティストです。これらの要素を組み合わせ、幻想的で鮮やかな色彩の没入型空間を作り出し、「総合芸術」を構築します。彼の作品はポップアートやシュルレアリスムの影響を受け、日常生活のブランド品や大衆文化の人物を取り入れ、個人や文化の政治性、疎外感、そして人間の心理的な経験を探求します。

ダ・コルテは国際的に作品を発表しており、近年の個展には「Fresh Hell」（金沢 21 世紀美術館、2023 年）、「The Street」（Rosenwald-Wolf Gallery、フィラデルフィアのザ・アーツ大学、2023 年）、「ROY G BIV」（Luma Westbau、チューリッヒ、2022 年）、「Mr. Remember」（ルイジアナ近代美術館、デンマーク、2022 年）、「As Long as the Sun Lasts」（メトロポリタン美術館、ニューヨーク、2021 年）、「Rubber Pencil Devil」（Prada Rong Zhai、上海、2020 年、中国での初の個展）などがあります。また、彼は 2018 年のケルン美術館での「THE SUPERMAN」、2017 年のニュー・ミュージアム・オブ・コンテンポラリー・アート（ニューヨーク）の「Harvest Moon」など、数々の著名な美術館でも個展を開催しています。

最近のグループ展には、2024 年の「SHINE ON」（Sadie Coles HQ、ロンドン）、「A Little After This」（A4 Arts Foundation Studio、ケープタウン）、2023 年の「Full Burn: Video from the Hammer Collection」（ハンマー美術館、ロサンゼルス）、2022 年の「Whitney Biennial 2022: Quiet as It's Kept」（ホイットニー美術館、ニューヨーク）などがあります。さらに、2024 年 2 月には、彼の屋外彫刻作品「As Long as The Sun Lasts」（2021 年）がメリーランド州のグレンストーン美術館で公開されました。

略歴

- 1980 アメリカ、ニュージャージー州カムデン生まれ
- 2004 The University of the Arts（フィラデルフィア）で BFA（Printmaking/Fine Arts）取得
- 2010 Yale University（ニューヘブン）で MFA（Sculpture）取得
- 現在、フィラデルフィアを拠点に活動

主な個展・二人展

- 2011 「The Island Beautiful / Mortal Mirror」 Bodega / Extra Extra（フィラデルフィア、アメリカ）
- 2012 「Candy Rain」 Joe Sheftel Gallery（ニューヨーク、アメリカ）
- 2013 「Dead Zone」 Nudashank（ボルチモア、アメリカ）

- 「CAR WHORE」 Wake (デトロイト、アメリカ)
「BACON BREAST」 ARTSPEAK (バンクーバー、カナダ)
「Fun Sponge」 ICA at MECA (ポートランド、アメリカ)
「I O O O I S L A N D」 Joe Sheftel Gallery (ニューヨーク、アメリカ)
「Body Without Organs with Sean Fitzgerald」 Fjord (フィラデルフィア、アメリカ)
2014 「Delirium I」 David Risley Gallery (コペンハーゲン、デンマーク)
「A Night in Hell」 Carl Kostyál (ストックホルム、スウェーデン)
「Easternsports with Jayson Musson」 Institute of Contemporary Art (フィラデルフィア、アメリカ)
2015 「Die Hexe」 Luxembourg & Dayan (ニューヨーク、アメリカ)
「Le Miroir Vivant」 Museum Boijmans Van Beuningen (ロッテルダム、オランダ)
2016 「A Season In He'll」 Art + Practice (ロサンゼルス、アメリカ)
「50 Wigs」 Herning Museum of Contemporary Art (ヘアニング、デンマーク)
2017 「Free Roses」 Mass MoCA (ノースアダムス、アメリカ)
「Slow Graffiti」 Secession (ウィーン、オーストリア)
2018 「THE SUPERMAN」 Kölnischer Kunstverein (ケルン、ドイツ)
2020 「Rubber Pencil Devil」 Prada Rong Zhai (上海、中国)
「Helter Shelter or The Red Show! or...」 Sadie Coles HQ (ロンドン、英国)
2021 「As Long As The Sun Lasts」
The Metropolitan Museum of Art, The Roof Garden Commission (ニューヨーク、アメリカ)
「American Speech」 Sadie Coles HQ (ロンドン、英国)
2022 「ROY G BIV」 Luma Westbau (チューリッヒ、スイス)
「Mr. Remember」 Louisiana Museum of Modern Art (フムルベック、デンマーク)
2023 「The Street」 Rosenwald-Wolf Gallery, University of the Arts (フィラデルフィア、アメリカ)
「Fresh Hell」 金沢 21 世紀美術館 (石川)
「THE DÆMON」 Matthew Marks Gallery (ロサンゼルス、アメリカ)

主なグループ展

- 2011 「SubSustainability」 Texas State University Gallery (サンマルコス、アメリカ)
「New Skin for the Old Ceremony」 Museum of Modern Art (ニューヨーク、アメリカ)
「That's How We Escaped: Reflections on Warhol」
Institute of Contemporary Art (フィラデルフィア、アメリカ)
「The Unlimited Plan with Kate Levant」 Cleopatra's (ブルックリン、アメリカ)
2012 「First Among Equals」 Institute of Contemporary Art (フィラデルフィア、アメリカ)
「Specifically Yours」 Joe Sheftel Gallery (ニューヨーク、アメリカ)
2013 「As Is Wet Hoagie」 OKO (ニューヨーク、アメリカ)
2014 「Cardboard Lover」 American Contemporary (ニューヨーク、アメリカ)
「The New Beauty of Our Modern Life」 Higher Pictures (ニューヨーク、アメリカ)
2015 「Taut Eye Tau -- Biennale de Lyon」 Musée d'Art Contemporain de Lyon (リヨン、フランス)

- 2016 「The 5th of July」 Atlanta Contemporary Art Center (アトランタ、アメリカ)
「Fire Under Snow」 Louisiana Museum of Modern Art (フムルベック、デンマーク)
「Illumination」 Louisiana Museum of Modern Art (フムルベック、デンマーク)
- 2017 「Dreamlands: Immersive Film and Cinema Since 1905」
The Whitney Museum of American Art (ニューヨーク、アメリカ)
- 2018 「Double Takes: Historic and Contemporary Film + Video」
Museum of Contemporary Art Cleveland (クリーブランド、アメリカ)
「57th Carnegie International」 Carnegie Museum of Art (ピッツバーグ、アメリカ)
「Warhol 1968」 Moderna Museet (ストックホルム、スウェーデン)
- 2019 「When the Whirlwind Begins」
The Anderson, Virginia Commonwealth University, School of the Arts (リッチモンド、アメリカ)
「The Other Apartment」 The Mattress Factory (ピッツバーグ、アメリカ)
「The Mushroom Show」 SARDINE (ニューヨーク、アメリカ)
「My Head Is a Haunted House」 Sadie Coles HQ (ロンドン、英国)
「May You Live In Interesting Times」 La Biennale di Venezia (ベニス、イタリア)
「Garland」 Treignac Projet (トレニャック、フランス)
「The Ancient History of the Distant Future」
Pennsylvania Academy of Fine Art (フィラデルフィア、アメリカ)
- 2020 「For a Dreamer of Houses」 Dallas Museum of Art (ダラス、アメリカ)
「Citizenship: A Practice of Society」 Museum of Contemporary Art Denver (デンバー、アメリカ)
「Invisible City: Philadelphia and the Vernacular Avant-garde」
University of Arts (フィラデルフィア、アメリカ)
「Topologies of the Real」 Central Academy of Fine Arts Art Museum (北京、中国)
「Come and See: An Exercise in Description in the Absence of the Originals」
Luxembourg & Dayan (ロンドン、英国)
- 2021 「THE DREAMERS」
58th October Salon, Belgrade Biennale, The Cultural Centre of Belgrade (ベルグラード、セルビア)
「New Grit: Art & Philly Now」 Philadelphia Museum of Art (フィラデルフィア、アメリカ)
「A Question of Taste」 Pera Museum (イスタンブール、トルコ)
「Home Life」 Matthew Marks Gallery (ニューヨーク、アメリカ)
「Super Fusion: 2021 Chengdu Biennale」
Chengdu Museum of Contemporary Art and Tianfu Gallery (成都、中国)
- 2022 「REPEATER」 Sadie Coles HQ (ロンドン、英国)
「Whitney Biennial 2022: Quiet as It's Kept」
Whitney Museum of American Art (ニューヨーク、アメリカ)
「The Dreamers: An Echoing film screenings: Blue Moon, 2017」
Basement Roma (ローマ、イタリア)
「In the Line of Flight, For Possible Worlds」 Deji Art Museum (南京、中国)

「Wild Strawberries」 125 Newbury (ニューヨーク、アメリカ)

「Dark Light: Realism in the Age of Post-Truths」 Aishti Foundation (レバノン)

2023

「Entre / Between」

Crystal Bridges Museum of American Art / The Momentary (ペンタゴンビル、アメリカ)

「Topologies of the Real: Techne Shenzhen 2023」

Shenzhen Museum of Contemporary Art and Urban Planning (深セン、中国)

以上

長田 綾美 Ayami Nagata

関連 URL ・ SNS 情報

Web: <https://nagataayami.portfoliobox.net/>

Instagram: @ [tbtb](#)

1997 年、大阪に生まれる。京都芸術大学にて染色テキスタイルを学び、2022 年大学院を修了。「日常をリフレームする」をテーマに、いわゆる布や織物ではなく、ブルーシートや輪ゴム、不織布、水糸といった日常にありふれた素材を使用し、社会的に意味づけられたマテリアルを別の存在へと変容させる作品を制作する。ブルーシートに絞りの技法で約 103,000 個の BB 弾をくりつけた《103,000》や、広辞苑 1 冊分を細長く裂いて編んだ《Old dictionary》など、気が遠くなるような時間をかけて手作業で制作された作品は、価値の転倒を図り、世界に対する新たな見方を与えてくれる。

略歴

- 1997 大阪府生まれ
- 2020 京都芸術大学 美術工芸学科染織テキスタイルコース卒業
- 2022 京都芸術大学大学院 美術工芸領域染織分野修了

主な個展

- 2021 「あおをくくる」 Lights Gallery (愛知)

主なグループ展

- 2020 「アートアワードトーキョー丸の内 2020」 行幸地下ギャラリー (東京)
- 2021 「VOCA 展 2021 現代美術展望・新しい平面の作家たち」 上野の森美術館 (東京)
「KUA ANNUAL2021 irregular reports いびつな報告群と希望の兆し」 東京都美術館 (東京)
- 2022 「アートアワードトーキョー丸の内 2022」 丸ビル (東京)
「第 3 回全国大学染色作品展」 染・清流館 (京都)
「A-Lab Artist Gate'22」 あまらぶ アートラボ A-Lab (兵庫県)
「KUA ANNUAL 2022 in Cm | ゴースト, 迷宮, そして多元宇宙」 東京都美術館 (東京)
- 2023 「Kyoto Art for Tomorrow 2023」 京都文化博物館 (京都)
「ARTISTS' FAIR KYOTO 2023」 京都新聞社 (京都)
「SESSEN」 FM802 オフィス (大阪)
- 2024 「ファイバアート、サイコー」 京都芸術大学ギャラリー・オーブ (京都)

主な受賞歴

- 2020 京都芸術大学卒業制作展 優秀賞・島敦彦特別賞
- 2022 京都芸術大学大学院修了展 大学院賞

第3回全国大学選抜染色作品展 奨励賞

2023 Kyoto Art for Tomorrow 2023 京都新聞賞

以上

名和 晃平 Kohei Nawa

関連 URL・SNS 情報

Web: <http://www.kohei-nawa.net/>

Instagram: [@nawa_kohei](https://www.instagram.com/nawa_kohei)

彫刻家／Sandwich Inc.主宰／京都芸術大学教授

1975 年生まれ。京都を拠点に活動。2003 年京都市立芸術大学大学院美術研究科博士課程彫刻専攻修了。

感覚に接続するインターフェイスとして、彫刻の「表皮」に着目し、セル（細胞・粒）という概念を機軸として、2002 年に情報化時代を象徴する《PixCell》を発表。生命と宇宙、感性とテクノロジーの関係をテーマに、重力で描くペインティング《Direction》やシリコンオイルが空間に降り注ぐ《Force》、液面に現れる泡とグリッドの《Biomatrix》、そして泡そのものが巨大なボリュームに成長する《Foam》など、彫刻の定義を柔軟に解釈し、鑑賞者に素材の物性がひらかれてくるような知覚体験を生み出してきた。

近年では、アートパビリオン《洗庭》など、建築のプロジェクトも手がける。2015 年以降、ベルギーの振付家／ダンサーのダミアン・ジャレとの協働によるパフォーマンス作品《VESSEL》《Mist》《Planet [wanderer]》の三部作を制作。2018 年にフランス・ルーヴル美術館 ピラミッド内にて彫刻作品《Throne》を特別展示。2023 年、フラン・セーヌ川のセガン島に高さ 25m の屋外彫刻作品《Ether (Equality)》を恒久設置。

主な個展

- 2009 「L_B_S」銀座メゾンエルメスフォーラム（東京）
- 2010 「Synthesis」スカイザバスハウス（東京）
- 2011 「SYNTHESIS」東京都現代美術館（東京）
- 2013 「SCULPTURE GARDEN」霧島アートの森（鹿児島）
- 2015 「FORCE」スカイザバスハウス（東京）
「FORCE」Pace Gallery（ロンドン、イギリス）
- 2017 「ESPUMA」ジャパン・ハウス・サンパウロ（サンパウロ、ブラジル）
- 2018 「Throne」Louvre Museum（パリ、フランス）
「PixCell-Deer」狩猟自然博物館（パリ、フランス）
「Biomatrix」スカイザバスハウス（東京）
- 2019 「Foam」金沢 21 世紀美術館（石川）
- 2020 「Oracle」GYRE GALLERY（東京）
- 2021 「TORNSCAPE」スカイザバスハウス（東京）
- 2022 「Aether」Pace Gallery（ニューヨーク、アメリカ）
「生成する表皮」十和田市現代美術館（青森）
- 2023 「From Code to Material」kojin kyoto（京都）
「Cosmic Sensibility」Pace Gallery（ソウル、韓国）

主なグループ展

- 2007 「六本木クロッシング 2007：未来への脈動」森美術館（東京）
- 2010 「釜山ビエンナーレ 2010：Living in Evolution」（釜山、韓国）
「第14回アジアン・アート・ビエンナーレ・バングラデシュ 2010」（ダッカ、バングラデシュ）
- 2013 「あいちトリエンナーレ 2013」（愛知）
- 2016 「New Sensorium – Exiting from Failures of Modernization –」ZKM（カールスルーエ、ドイツ）
- 2017 「Japanorama: New Vision on Art since 1970」ポンピドゥ・センター＝メッス（メッス、フランス）
- 2018 「深みへー日本の美意識を求めて」オテル・サルモン・ド・ロスチャイルド（パリ、フランス）
- 2019 「百年の編み手たち -流動する日本の近現代美術-」東京都現代美術館（東京）
「Reborn- Art Festival 2019」（石巻、宮城）
「時を超える：美の基準」二条城（京都）
- 2020 「神宮の杜芸術祝祭：神宮の杜 野外彫刻展 “天空海闊”」明治神宮（東京）
「京都の美術 250年の夢」京都市京セラ美術館（京都）
- 2022 「感覚の領域 今、『経験する』ということ」国立国際美術館（大阪）

主な受賞歴

- 2003 京都府美術工芸新鋭選抜展最優秀賞
- 2005 京都市芸術文化特別奨励者
- 2010 第14回アジアン・アート・ビエンナーレ・バングラデシュ 2010 最優秀賞
- 2011 平成23年度京都市芸術新人賞
- 2017 平成29年度京都府文化賞 功労賞

以上

西村 大樹 Daiki Nishimura

関連 URL ・ SNS 情報

Web: <https://daikinishimura.jimdofree.com/>

Instagram: [@daiki_nishimura_art](https://www.instagram.com/daiki_nishimura_art)

1985 年、大阪府に生まれる。大阪芸術大学卒業後、画家として活動をはじめ。野鳥研究者であり環境アセスメントの仕事をしていた父親の影響を受け、東日本大震災を契機に、現代社会が直面する気候変動や放射能汚染等の環境問題をテーマとした作品を発表する。2016 年、Concorso Arte Milano のファイナリストとして選出され、海外での活動が活発になり、欧米やアジアのギャラリーでの企画展やアートフェアに多数参加。現在は大阪を拠点に活動している。

略歴

- 1985 大阪府生まれ
- 2009 大阪芸術大学 芸術学部美術学科卒業
- 2011 大阪芸術大学大学院 芸術研究科博士課程前期修了

主な個展

- 2021 「そして誰もいなくなった」 MARUEIDO JAPAN (東京)
- 2023 「Bird's eye view – To recollect what we remember: Part1」 法然院 (京都)
- 2023 「Bird's eye view – To recollect what we remember: Part2」
日本橋三越コンテンポラリーギャラリー (東京)
- 2024 「西村大樹個展—不在の風景、平穏な海」 hakari contemporary (京都)

主なグループ展

- 2012 「Transience: Beyond the Horizon」 Japanese Friendship Garden (サンディエゴ、アメリカ)
- 2017 「Jeunes artistes émergents」 GALERIE Akié Arichi (パリ、フランス)
- 2019 「したたかな鼓動」 Gallery O2 (金沢)
- 2021 「眼福 GAMPUKU 展」 The Terminal KYOTO (京都)
- 2022 「野沢アートプロジェクト」 おぼろ月夜の館 (長野)
- 2023 「LANDSCAPE here and there」 MARUEIDO JAPAN (東京)
「TRAITÉ DU PAYSAGE」 GALERIE Akié Arichi (パリ、フランス)
- 2023 「Panache: A Singaporean Mosaic」 Pan Pacific Singapore (シンガポール)

主なアートフェア

- 2015 ART SAN DIEGO 2015 spectrum gallery (サンディエゴ、アメリカ)
- 2016 MASTERPIECE LONDON 2016 Katie Jones Japanese Art (ロンドン、英国)

- 2017 Wop Art Lugano Carte Scoperte Art Gallery (ルガーノ、スイス)
YOUNG INTERNATIONAL ART FAIR #11 PARIS GALERIE Akié Arichi (パリ、フランス)
PAD London 2017 Katie Jones Japanese Art (ロンドン、英国)
- 2022 Affordable Art Fair / Hong Kong Touch Gallery (香港)
- 2023 大阪アートフェスティバル 大阪府立江之子島文化芸術創造センター (大阪)
Affordable Art Fair / SINGAPORE シンガポール (Y Art Project、シンガポール)
- 2024 ARTISTS' FAIR KYOTO 京都国立博物館 (京都)

主な受賞歴

- 2009 東京ワンダーシード 2009 入選
- 2009 大阪芸術大学卒業修了作品展 学長賞受賞 (一席)
- 2010 東京ワンダーシード 2010 入選
- 2015 UNKNOWN ASIA ART EXCHANGE OSAKA 2015 審査員賞 (松尾良一) 受賞
- 2016 Young Creators Award 2016 大賞受賞
Concorso Arte Milano 2016 ファイナリスト
- 2022 Kaika Tokyo Award 2022 入選
Watowa Art Award 入選
- 2023 Watowa Art Award 審査員賞 高橋隆史賞

コレクション

- 2015 AMAN RESORTS AMAN TOKYO
- 2015 ホテルプラザ大阪
- 2024 基住

以上

丹羽 良徳 Yoshinori Niwa

関連 URL ・ SNS 情報

Web: <https://yoshinoriniwa.com>

Instagram: [@niwayoshinori](#)

X: [@YoshinoriNiwa](#)

1982 年、愛知県に生まれる。現在、ウィーンを拠点に活動。タイトルに明示されるスローガンの自己説明的で、そしてほとんどの場合は非生産的で無意味な行動を公共空間で実現するときに生じる軋轢や問題などを含めた過程の一部始終を映像記録に収めることによって、制度化された公共概念の外縁を描く作品を発表している。主なパブリックコレクションにオタズ財団（スペイン）、カディスト財団（パリ／サンフランシスコ）、グロツワフ現代美術館（ポーランド）、森美術館（東京）ほか。

略歴

- 1982 愛知県生まれ
- 2005 多摩美術大学 造形表現学部映像演劇学科卒業

主な個展

- 2009 「振り向いてよ共同体!」 Migigawanikenme（東京）
「Transforming puddle A to puddle B」 Art in General（ニューヨーク、アメリカ）
- 2010 「Communicating with Thieves」 HIAP Project Room（ヘルシンキ、フィンランド）
「アクティヴィズムの詩学」 ギャラリー α M（東京）
「解決策なしそれでも乱闘」 AI KOWADA GALLERY（東京）
- 2011 「共同体の搜索もしくはその逃走劇」 AI KOWADA GALLERY（東京）
- 2012 「ベルンで熊を拍手喝采する」 NADiff Window Gallery（東京）
「時代の反対語が可能性」 GALLERY TERRA 東京（東京）
「時代の反対語が可能性」 AI KOWADA GALLERY（東京）
- 2014 「Never Trust in People without Contradiction」 1335MABINI（マニラ、フィリピン）
「Research and Production: Artistic Methods in a Transitional Period」 淡水歴史博物館（台北、台湾）
- 2015 「Historically Historic Historical History of Communism」 Edel Assanti（ロンドン、英国）
- 2016 「名前に反対」 みなとまちアートテーブルなごや（愛知）
「Power of Ownership」 1335MABINI（マニラ、フィリピン）
「理由への反撃」 CAPSULE（東京）
「Zapoznela hipoteza – Od A do B」 Alkatraz Gallery（リュブリャナ、スロベニア）
- 2017 「MAM スクリーン#5: 丹羽良徳映像集」 森美術館（東京）
「We're Heading to a Place Where Nobody Wants to Go By the Will of All」
1335MABINI（マニラ、フィリピン）

- 「That Language Sounds Like A Language」 Edel Assanti (ロンドン、英国)
- 2019 「誰も要求してない計画に全会で一致する」 ギャラリーX BY PARCO (東京)
「想像したはずの共同体」 Satoko Oe Contemporary (東京)
- 2020 「FROM 1 OCTOBER 2017: FACE COVER BAN IN AUSTRIA」
das weisse haus (ウィーン、オーストリア)
「Rehabilitation of Ancestors」 Zimmermann Krachtowill (グラーツ、オーストリア)
- 2021 「私的空間からアドルフ・ヒットラーを引き摺り出す」 GOLD+BETON (ケルン、ドイツ)
「Yoshinori Niwa: On Rehabilitation of Domination and Domain」
Match Gallery/The Museum and Galleries of Ljubljana (リュブリャナ、スロベニア)
- 2022 「Dictatorship of Possessions」 Edel Assanti (ロンドン、英国)
- 2023 「Rehabilitating Our Spirit Under Capitalism」
国際交流基金ニューデリー日本文化センター／Shrine Empire (ニューデリー、インド)
「人類はなぜ経済活動をしているの？」 Satoko Oe Contemporary (東京)

主なグループ展

- 2005 「Ongoing vol.04 - よんでみてみて!」 BankART1929 (神奈川)
- 2006 「Living Art from Tokyo and San Francisco」 The Lab (サンフランシスコ、アメリカ)
- 2010 「UTOPIA OF EXOTIC」 PAVILION UNICREDIT (ブカレスト、ルーマニア)
- 2011 「BONE 14 - Performance Art Festival BERN」 Schlachthaus Theater (ベルン、スイス)
「Busan Biennale Sea Art Festival 2011」 (釜山、韓国)
「再考現学 /Re-Modernologio phase2: 観察術と記譜法」 国際芸術センター青森 (青森)
- 2012 「But Fresh」 トーキョーワンダーサイト本郷 (東京)
「Double Vision: Contemporary Art From Japan」
Moscow Museum of Modern Art (モスクワ、ロシア) /
Haifa Museum of Art (ハイファ、イスラエル)
- 2013 「六本木クロッシング 2013: アウト・オブ・ダウト」 森美術館 (東京)
「あいちトリエンナーレ 2013: 揺れる大地
ーわれわれはどこに立ってるのか: 場所、記憶、そして復活」 愛知芸術文化センターほか (愛知)
- 2014 「すすきのトリエンナーレ 2014」 (北海道)
- 2015 「Rivers - The way of Living in Transition/Asia Contemporary Art Links」
The Pier-2 Art Center (高雄、台湾) ほか
「愛すべき世界」 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 (香川)
- 2016 「瀬戸内国際芸術祭 2016」 (香川)
「Packaging Design from Japan: Too Pretty to Throw Away」
Managua Center (クラコフ、ポーランド) ほか
- 2017 「ソーシャリー・エンゲイジド・アート展: 社会を動かすアートの新潮流」
3331 Arts Chiyoda (東京)
「Wars Of Worlds」 National Museum of Art Constanța (コンスタンツァ、ルーマニア) ほか

- 2018 「steirischer herbst'18」(グラーツ、オーストリア)
「Practice of Occupation of the Work」ヴロツワフ現代美術館(ヴロツワフ、ポーランド)
- 2019 「45 Salón Nacional de Artistas」(ボゴタ、コロンビア)
「JAPAN UNLIMITED」frei_raum Q21 exhibition space MuseumsQuartier(ウィーン、オーストリア)
「青森 EARTH2019:いのち耕す場所」青森県立美術館(青森)
- 2020 「欲しいものはみんな地球の向こう側にあった」
AIL-Angewandte Innovation Lab(ウィーン、オーストリア)
「TIME FOR OUTRAGE! ART IN TIMES OF SOCIAL ANGER」
Museum Kunstpalast(デュッセルドルフ、ドイツ)
- 2021 「Rule?」21_21 DESIGN SIGHT(東京)
「Taking My Thoughts for a Walk」
Dortmunder Kunstverein+Urbane Künste Ruhr(ドルトムント、ドイツ)
「Disposing of Hitler: Out of the Cellar, Into the Museum」
The House of Austrian History(ウィーン、オーストリア)
- 2022 「COLOMBOSCOPE2021」(コロンボ、スリランカ)
「Five Exercises of Resistance」Eretz Israel Museum(テルアビブ、イスラエル)
「spring show: 丹羽良徳、平田尚也」Satoko Oe Contemporary(東京)
「Bucharest Biennale 10」(ブカレスト、ルーマニア)
- 2023 「日本国憲法展」青山|目黒(東京)
「Curated By」GABRIELE SENN GALERIE(ウィーン、オーストリア)
- 2024 「第8回横浜トリエンナーレ 野草:いま、ここで生きてる」横浜美術館ほか(神奈川)

以上

ソピアップ・ピッチ Sopheap Pich

関連 URL・SNS 情報

Web: <https://sopheap-pich.com>

<http://tomiokoyamagallery.com/artists/sopheappich/>

1971 年、カンボジアに生まれる。幼少期をポルポト政権下で育ち、クメール・ルージュから逃れるために 79 年からの 5 年間にタイ国境近くの難民キャンプで過ごす。このとき、NGO が運営するアートスクールに通い、絵画に興味を持つ。84 年に一家でアメリカに移住。90 年にマサチューセッツ大学アマースト校医学部に入学し、95 年にファインアート専攻に転部する。その後、シカゴ美術館附属美術大学に進んでペインティングを専攻。99 年に修了しニューヨークを拠点に活動する中で、絵画制作を模索しながら故郷の風景を思い浮かべ、2002 年にカンボジアに帰国。農村の暮らしや手仕事の美しさに感銘を受け、竹や籐、ワイヤー、蜜蝋など、地域に根差した素材を用いて立体作品の制作を開始する。竹や籐をワイヤーで粗く編み込んだ有機的かつ幾何学的な形態は、軽やかさと重量感をあわせもち、見る角度によって様々な表情を見せる。近年は再び壁面レリーフ、版画作品制作に意欲的に取り組んでいる。メトロポリタン美術館、グッゲンハイム美術館、ポンピドゥー・センター国立近代美術館、M+、東京国立近代美術館ほか、各国の主要な美術館に作品が収蔵されている。

略歴

- 1971 カンボジア、バットバン生まれ
- 1995 マサチューセッツ大学アマースト校（アメリカ） 美術学士取得
- 1999 シカゴ美術館附属美術大学（アメリカ） 美術学修士取得

主な個展

- 2013 「Cambodian Rattan: The Sculptures of Sopheap Pich」
Metropolitan Museum of Art（ニューヨーク、アメリカ）
- 2014 「Sopheap Pich: A Room」 Indianapolis Museum of Art（インディアナポリス、アメリカ）
- 2017 「SOPHEAP PICH: FROM STUDIO TO FINE ART」
Galerie L'Institut français du Cambodge（プノンペン、カンボジア）
「desire line」小山登美夫ギャラリー、8/ART GALLERY/ Tomio Koyama Gallery（東京）
- 2019 「RECLAIM -再生」小山登美夫ギャラリー（東京）
- 2023 「すべては癒しの種となる」小山登美夫ギャラリー（東京）

主なグループ展

- 2009 「第 4 回福岡アジア美術トリエンナーレ」福岡アジア美術館（福岡）
- 2011 「シンガポール・ビエンナーレ 2011」National Museum of Singapore（シンガポール）
「第 7 回アジア・アート・ビエンナーレ」National Taiwan Museum of Fine Arts（台中、台湾）

- 2012 「dOCUMENTA (13)」(カッセル、ドイツ)
- 2013 「第5回モスクワ・ビエンナーレ」(モスクワ、ロシア)
- 2017 「第57回ヴェネツィア・ビエンナーレ 『Viva Arte Viva』」(ヴェネツィア、イタリア)
「サンシャワー：東南アジアの現代美術展 1980年代から現在まで」森美術館(東京)
- 2018 「ソピアップ・ピッチ / クウワイ・サムナン / シュシ・スライマン」小山登美夫ギャラリー(東京)
- 2019 「MOT コレクション 第1期、第2期 ただいま／はじめまして」東京都現代美術館(東京)
- 2022 「瀬戸内国際芸術祭 2022」(香川)
- 2023 「第14回光州ビエンナーレ」Gwangju National Museum(光州、韓国)
「ワールド・クラスルーム：現代アートの国語・算数・理科・社会」森美術館(東京)
- 2024 「ディルイーヤ現代美術ビエンナーレ 2024」(ディルイーヤ、サウジアラビア)

以上

廣瀬 智央 Satoshi Hirose

関連 URL ・ SNS 情報

Web: <https://www.milleprato.com/>

<http://tomiokoyamagallery.com/artists/satoshi-hirose/>

1963 年、東京に生まれる。多摩美術大学を卒業後、1991 年にイタリア政府給費奨学生として渡伊。1996–97 年ポーラ美術振興財団在外研修員としてイタリアにて研修し、97 年ミラノ・ブレラ美術アカデミーを修了。2008–09 年には文化庁芸術家在外研修員としてニューヨークに滞在。自身の作品について、「エピソードや比喩で構成された一種の形而下学のおよび形而上学的な議論」と語り、インスタレーション、彫刻、絵画、写真、パフォーマンスなど、幅広い表現手法を用いて作品を発表している。世界各国の美術館・ギャラリーにおいて数多くの展覧会に参加し、近年はシングルマザー生活支援施設の母子と空を交換する「スカイ・プロジェクト」（2016 年～2035 年まで継続予定、前橋市）や、アートプロジェクト「コモنز農園」（2022 年～、和歌山）など、社会との関わりを考えた長期プロジェクトにも取り組んでいる。主なパブリックコレクションに、アサヒビール大山崎山荘美術館、森美術館、アーツ前橋ほか。現在はミラノを拠点に活動している。

略歴

- 1963 東京都生まれ
- 1989 多摩美術大学卒業
- 1997 ミラノ・ブレラ美術アカデミー（イタリア）修了

主な個展

- 1993 「Domicilio」 Spazio Via Tosi（ミラノ、イタリア）
- 1996 「Una Volta」 リーセント・ギャラリー（北海道）
- 1997 「Satoshi Hirose」 Casa degli Artisti（ミラノ、イタリア）
「Luce Rosa」 Project for ATM（ミラノ、イタリア）
「レモンプロジェクト 03」 ザ・ギンザ・アートスペース（東京）
- 1998 「Tra-mite」 Hyperion Arte Contemporanea（トリノ、イタリア）
「Paradiso- Criterium 34」 水戸芸術館現代美術ギャラリー（茨城）
- 1999 「Barcheggio (Boating)」 Murazzi del Po（トリノ、イタリア）
「Viaggio」 スパイラル（東京）
「プロジェクト A.P.O.」 佐賀町エキジビットスペース（東京）
- 2000 「day, day, day.....」 小山登美夫ギャラリー（東京）
「2001」 広島市現代美術館（広島）
- 2001 「Venezia, Krungthep」 Project 304（バンコク、タイ）
- 2002 「睡蓮 2002：蒼の彼方へ クロード・モネ×廣瀬智央」 アサヒビール大山崎山荘美術館（京都）
- 2003 「ディープ・フォレスト」 スパイラル（東京）

- 「Traveller」 nicolaforrello gallery (トリノ、イタリア)
- 2004 「Pas au de-la」 Umberto Di Marino Arte Contemporanea (ナポリ、イタリア)
- 2005 「BLUE BOX」 小山登美夫ギャラリー (東京)
- 2008 「官能の庭」 小山登美夫ギャラリー (東京)
- 「Microcosm」 Umberto Di Marino Arte Contemporanea (ナポリ、イタリア)
- 2009 「Angelus Novus」 Galleria Maria Grazia Del Prete (ローマ、イタリア)
- 2012 「Winter Garden」 Galleria Maria Grazia Del Prete (ローマ、イタリア)
- 2013 「ケルビーノ」 8/ART GALLERY/ Tomio Koyama Gallery (東京)
- 2015 「Heteronym」 Galleria Umberto Di Marino (ナポリ、イタリア)
- 2016 「Flanêr」 モリーゼ文化財団 (カンポバッソ、イタリア)
- 2017 「森のコスモロジー」 8/ART GALLERY/ Tomio Koyama Gallery (東京)
- 2020 「豆のコスモロジー」 gallery ON THE HILL (東京)
- 「廣瀬智央 地球はレモンのように青い」 アーツ前橋 (群馬)
- 「奇妙な循環」 小山登美夫ギャラリー (東京)
- 2021 「Vito da qui」 Umberto Di Marino (ナポリ、イタリア)
- 「Strange Loop」 La Portineria (フィレンツェ、イタリア)
- 2023 「アートラボ 2023 第Ⅲ期 廣瀬智央 みかんの旅」 長野県立美術館 (長野)
- 「月の裏側」 小山登美夫ギャラリー天王洲 (東京)
- 「手の裏側」 森岡書店 (東京)

主なグループ展

- 2001 「Neo Tokyo」 シドニー現代美術館 (シドニー、オーストラリア)
- 「先立未来」 ルイジ・ペッチ現代美術センター (プラトー、イタリア)
- 2002 「エモーショナルサイト」 佐賀町食糧ビルディング (東京)
- 2004 「未来への回路 — 日本の新世代アーティスト」
- シントラ近代美術館 (リスボン、ポルトガル) ほか世界巡回
- 「楽しむ空間 — 一歩前へ！」 宮城県美術館 (宮城)
- 「アートがあれば why not live for art?」 東京オペラシティーアートギャラリー (東京)
- 「Officina Asia」 ボローニャ近代美術館 (ボローニャ、イタリア) ほか
- 2005 「キュレーターの視点 - <点>と<網>」 埼玉県立近代美術館 (埼玉)
- 2006 「空にふれるまでのあいだ」 ヴァンジ彫刻庭園美術館 (静岡)
- 2011 「常設特別展 Art in an Office — 印象派・近代日本画から現代絵画まで」 豊田市美術館 (愛知)
- 2012 「別府現代芸術フェスティバル 2012 『混浴温泉世界』」 大分県別府市内各所
- 2013 「アーツ前橋開館記念展 カゼイロノハナ 未来への対話」 アーツ前橋 (群馬)
- 2018 「Spatium - Stanze del Contemporaneo」
- ヴィスコンティ宮殿 / ヴェッキオ宮殿 (ブリニャーノ・ジェーラ・ダッダ、イタリア)
- 2020 「佐賀町エキジビット・スペース 1983-2000 現代美術の定点観測」
- 群馬県立近代美術館 (群馬)

- 「大丸有 SDGs ACT5×東京ビエンナーレ 2020/2021」新有楽町ビルディング（東京）
- 2021 「Reborn-Art Festival 2021-22」石巻市街地ほか（宮城）
「すべての ひとに 石が ひつよう 目と、手でふれる世界」ヴァンジ彫刻庭園美術館（静岡）
- 2022 「紀南アートウィーク 2022 みかんマンダラ」和歌山県紀南地域（和歌山）
- 2023 「Carta Canta」 Casa Di Marino、ナポリ、イタリア
「紀南アートウィーク 2023 みかんかく」和歌山県紀南地域（和歌山）
「アーツ前橋開館 10 周年記念 コレクション+手のひらから宇宙まで」アーツ前橋（群馬）
- 2024 森岡書店×ギャラリー小柳 共同企画展「One Single Book」ギャラリー小柳（東京）
「Cosmologie」 Spazio 21（ローディ、ロンバルディア、イタリア）

以上

広瀬菜々 & 永谷一馬 Nana Hirose & Kazuma Nagatani

関連 URL ・ SNS 情報

Web: <https://hirosenagatani.com>

Instagram: [@hirose_nagatani](#)

X: [@hirose_nagatani](#)

広瀬菜々は 1980 年、大阪府生まれ。永谷一馬は 1982 年、兵庫県生まれ。ともにブレーメン芸術大学にて現代芸術家の竹岡雄二に師事し、マイスターシューラー号を取得。現在、ドイツを拠点に活動している。2019 年にはポーラ美術振興財団、野村財団、LBBW 財団などの助成を受けてドイツを縦断する三つの個展を開催した。何も変わらない日常と現代におけるアートの境界をテーマにしたインスタレーション作品を制作し、その作品は DMG 森精機、八光カーグループなどの企業コレクションや、INAX ミュージアムなどの博物館に収蔵されている。

略歴

広瀬菜々

- 1980 大阪府生まれ
- 2003 京都精華大学 芸術学部造形学科陶芸分野卒業
- 2005 京都精華大学大学院 芸術研究科博士前期課程修了
- 2013 ブレーメン芸術大学 美術学部ディプローム課程修了 Natascha Sadr Haghigian
竹岡雄二に師事
- 2014 ブレーメン芸術大学 美術学部マイスターシューラー取得

永谷一馬

- 1982 兵庫県生まれ
- 2004 京都精華大学 芸術学部造形学科陶芸分野卒業
- 2013 ブレーメン芸術大学 美術学部ディプローム課程修了 Franka Hörnschemeyer
竹岡雄二に師事
- 2014 ブレーメン芸術大学 美術学部マイスターシューラー取得

主な個展

- 2016 「Today is a good day」クンストフェライン・フランクフルト（フランクフルト、ドイツ）
「A letter from Vienna」クンストラーハウス・ザルツヴェーデル（ザルツヴェーデル、ドイツ）
- 2017 「Still Life」ヨハン・フリードリヒ・ダナイル美術館（ザルツヴェーデル、ドイツ）
「Life is beautiful」クンストフェライン・ブリュール（ブリュールドイツ）
- 2018 「Another Place, Anna Bart との対話展」国際交流基金（ケルン、ドイツ）

- 2019 「Why don't cats wear shoes?」
クンストフェライン・クックスハーフェン（クックスハーフェン、ドイツ）ほか
「Out of the Ordinary」ウルム芸術財団（ウルム、ドイツ）
- 2021 「Resonances of DiStances」クンストフェライン・レバークーゼン（レバークーゼン、ドイツ）

主なグループ展

- 2014 「Of the Universe」ヴェーザーブルク現代美術館（ブレーメン、ドイツ）
- 2015 「アーツ・チャレンジ 愛知芸術文化センター（愛知）
- 2017 「Static Scope」アキバタマビ 21（東京）
「TWS Open Studio トーキョーワンダーサイトレジデンス（東京）
「ベルギッシュ・アートアワード」ゾーリンゲン美術館（ゾーリンゲン、ドイツ）
- 2018 「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」（新潟）
- 2019 「Artists Fair Kyoto」京都文化博物館別館（京都）
- 2020 「停滞フィールド」TOKAS 本郷（東京）
- 2022 「コレクターズ アートと生きる四人」福岡市美術館（福岡）
- 2023 「Still Life」AIR KAMONASU（京都）

以上

ジョシュ・ブランド Josh Brand

関連 URL・SNS 情報

Web: <https://misakoandrosen.jp/artists/joshbrand/>

1980 年、アメリカのウィスコンシン州に生まれる。シカゴ美術館附属美術大学で BFA（美術学士）を取得。暗室での自由な実験プロセスを通じて生み出される、ユニークな写真オブジェ（フォトグラム）を制作している。その作品には、作家の日常生活にある物、場所、人々の写真から抜粋した具象的なイメージの断片が散見される。作家は「ある写真の断片が別の写真の出発点」だと語り、そのアプローチは作品間の継続的な即興と対話を可能にしている。日本では、2012 年に東京オペラシティアートギャラリーで開催されたグループ展「アートがあれば 2」で、その作品が初めて展示された。主なパブリックコレクションにダラス美術館、ヒューストン美術館ほか。現在、ニューヨークを拠点に活動している。

略歴

- 1980 アメリカ、エルクホーン生まれ
- 2002 シカゴ美術館附属美術大学（アメリカ） 卒業

主な個展・二人展

- 2012 「Nature」 Herald St（ロンドン、英国）
- 2014 「Face」 Misako and Rosen（東京）
- 2015 「Bianca beck and Josh Brand」 Rachel Uffner Gallery（ニューヨーク、アメリカ）
「Peace Being」 Herald St（ロンドン、英国）
- 2018 Adrian Rosenfeld Gallery（サンフランシスコ、アメリカ）
- 2020 「Condo London」 Herald St（ロンドン、英国）
- 2021 LA MAISON DE RENDEZ-VOUS（ブリュッセル、ベルギー）
- 2022 「People」 Misako & Rosen（東京）

主なグループ展

- 2012 「アートがあれば 2」 東京オペラシティアートギャラリー（東京）
- 2013 「Museum of Modern Art and Western Antiquities Department of Light Recordings Section IV: Lens Drawing」 Marian Goodman Gallery（パリ、フランス）
- 2014 「Personal Space」 Essex Flowers（ニューヨーク、アメリカ）
「Never Enough: Recent Acquisitions of Contemporary Art」 ダラス美術館（ダラス、アメリカ）
- 2016 「Double Take」 Drawing Room（ロンドン、英国）
- 2019 「What Wind」 Ceysson & Bénétière（ニューヨーク、アメリカ）
- 2021 「Anarchy of the Imagination」 Kerry Schuss Gallery（ニューヨーク、アメリカ）
- 2024 「Condo London」 Herald St（ロンドン、英国）

以上

ベルナール・フリズ Bernard Frize

関連 URL・SNS 情報

Web: <https://www.bernardfrize.com/>

Instagram: [@bernardfrize](https://www.instagram.com/bernardfrize)

1949 年、フランスのサン・マンデに生まれる。絵画の最小限の本質を探究し、観念や美学を排除して、いかに絵画が表出するかというプロセスを重視した作品の制作をつづけている。あらかじめ用意されたプランにしたがって、数名の人物が一枚の絵画を作り上げていく作品で広く世に知られることとなった。2015 年、ベルリン芸術アカデミーよりケーテ・コルヴィッツ賞をおくられた際、審査員のアイシェ・エルクメン、モナ・ハトゥム、カリン・ザンダーは次のように述べた。「彼は現代における絵画的抽象化の前進と絵画的表現ならびに構造のトポロジーの発展において、最大限の知的素養とともに懸命に努力している。」テート・ギャラリー、ポンピドゥー・センター国立近代美術館、ソフィア王妃芸術センター、ロサンゼルス現代美術館ほか、各国の主要な美術館に作品が収蔵され、日本では国立国際美術館が所蔵している。

略歴

1949 フランス、サン・マンデ生まれ

現在、ベルリンを拠点に活動

主な個展

- 1986 ヴィラ・メディチ（ローマ、イタリア）
- 1993 クンストハレ・チューリヒ（チューリヒ、スイス）
- 1999 ウィーン・ルートヴィヒ財団近代美術館（ウィーン、オーストリア）
- 2000 ヴェストファーレン州立美術館（ミュンスター、ドイツ）
- 2002 S.M.A.C.K.（ヘント、ベルギー）
- 2010 「And How and Where and Who」モースブロイヒ美術館（レーヴァークーゼン、ドイツ）
- 2015 「This is a Bridge」カルースト・グルベンキアン財団（リスボン、ポルトガル）
- 2019 「KKKK」Kaikai Kiki Gallery（東京）
「Bernard Frize」ペロタン（東京）
「Sans Repentir」ポンピドゥー・センター国立近代美術館（パリ、フランス）
- 2021 「The Other Side (From Right-to-Left or the Reverse)」ペロタン（上海、中国）
- 2023 「Les choses que j'ai vues」ペロタン（パリ、フランス）

主なグループ展

- 2005 「第 51 回ヴェネツィア・ビエンナーレ」（ヴェネツィア、イタリア）
- 2006 「エッセンシャル・ペインティング」国立国際美術館（大阪）
- 2012 「第 30 回サンパウロ・ビエンナーレ」（サンパウロ、ブラジル）

- 2016 「村上隆のスーパーフラット・コレクション」 横浜美術館（神奈川）
- 2017 「Abstract Painting Now!」 クンストハレ美術館（クレムス、オーストリア）
- 2019 「Le Parti de la Peinture」 ルイ・ヴィトン財団（パリ、フランス）
- 2022 「Head in the clouds」 ペロタン東京（東京）
「Une histoire de famille」 リヨン現代美術館（リヨン、フランス）
- 2024 「True Colors」 ハーグ美術館（ハーグ、オランダ）

主な受賞歴

- 2011 ベルリーニッシュェ・ギャラリーより Fred Thieler Prize for Painting を受賞
- 2015 ベルリン芸術アカデミーよりケーテ・コルヴィッツ賞を受賞

以上

カンディダ・ヘーファー Candida Höfer

関連 URL・SNS 情報

Web: <https://www.skny.com/artists/candida-hofer>

Instagram: [@candidahoefer_official](#)

1944 年、ドイツのエーバースヴァルデに生まれる。1973 年からデュッセルドルフ美術アカデミーで映画を学んだのち、76 年より同アカデミーでベッヒャー夫妻に師事した。トーマス・ルフとともに、ベッヒャー派の中でもいち早くカラー写真を取り入れたアーティストとして知られている。図書館や宮殿、劇場などの文化的象徴とされる豪華な建造物をはじめ、様々な公共建築の室内空間を、人物がいない状態で、その空間の光だけを用いて撮影し、2 メートルを超える大型写真作品として発表している。2002 年に「ドクメンタ 11」に参加し、03 年にはヴェネツィア・ビエンナーレのドイツ館代表をマーティン・キッペンバーガーとともに務めるなど、国際的に高い評価を得ている。テートモダン、グッゲンハイム美術館、ニューヨーク近代美術館、メトロポリタン美術館、ポンピドゥー・センター国立近代美術館、フランクフルト現代美術館ほか、欧米の主要な美術館に作品が収蔵されている。

略歴

1944 ドイツ、エーバースヴァルデ生まれ
 1964–68 Cologne Academy of Fine and Applied Arts
 1973–82 Dusseldorf Academy of Fine Arts
 現在、ドイツのケルンを拠点に活動

主な個展・二人展

1982 「Offentliche Innenraume 1979-1982」
 Fotografische Sammlung, Museum Folkwang (エッセン、ドイツ)
 1984 「Innenraum, Fotografien 1979-1984」
 Regionalmuseum Xanten, Rheinisches Landesmuseum (ボン、ドイツ)
 1998 Centro de Fotografía, Universidad de Salamanca Galería Fúcares (マドリード、スペイン)
 2000 「Targeting images, objects + ideas」
 The Museum of Contemporary Photography (シカゴ、アメリカ)
 2003 「Zwölf Museumsräume」 Kunsthalle Bremen (ブレーメン、ドイツ)
 2006 Graphische Sammlung der ETH (チューリッヒ、スイス)、
 Irish Museum of Modern Art (ダブリン、アイルランド)、Musée du Louvre (パリ、フランス)、
 Sonnabend Gallery (ニューヨーク、アメリカ)
 2007 Galerie Friedrich (バーゼル、スイス)、Henie Onstad Art Centre (オスロ、ノルウェー)、
 Kunsthau Hamburg (ハンブルグ、ドイツ)
 2013 「Villa Borghese」 Sonnabend Gallery (ニューヨーク、アメリカ)、Yuka Tsuruno Gallery (東京)

- 2014 「Villa Borghese」 Ben Brown Fine Arts (ロンドン、英国)、Yuka Tsuruno Gallery (東京)
- 2019 「Contemplations: The Large and the Small-The Still and the Moving」 Yuka Tsuruno Gallery (東京)
- 2023 「Reflections of Spaces – Spaces of Reflection」 Kotaro Nukaga (東京)

主なグループ展

- 2003 「Yet Untitled」 Städtische Galerie Wolfsburg (ヴォルフスブルグ、ドイツ)、
Suermondt-Ludwig-Museum (アーヘン、ドイツ)、
Kunsthalle Nürnberg (ニュルンベルク、ドイツ)、
Det Nationale Fotomuseum (コンハーゲン、デンマーク)
- 2004 「Europe in Art」 Kunsthaus Hamburg (ハンブルグ、ドイツ)
- 2007 「Berlin Tokyo, Tokyo Berlin」 Neue Nationalgalerie (ベルリン、ドイツ)
- 2008 「Paraisos indefinidos」
Patio de Escuelas, Centro de Fotografía Universidad de Salamanca (サラマンカ、スペイン)
「Art is for the Spirit: Works from the UBS Art collection」 森美術館 (東京)
- 2012 「Der Mensch und seine Objekte」 Fotografische Sammlung, Museum Folkwang (エッセン、ドイツ)
- 2015 「Time and Present. Photography from the Deutsche Bank Collection」 原美術館 (東京)
「Candida Höfer: Memory」 The Hermitage Museum (サンクトペテルブルグ、ロシア)
- 2017 「Infinite Garden. From Giverny to the Amazon」 Centre Pompidou-Metz (メス、フランス)
- 2018 「A gaze into architecture - Phases of Contemporary Photography and Architecture」
Archi Depot Museum Tokyo (東京)
- 2021 「Self-History」 WHAT Museum (東京)
- 2022 「History of a Collection with Civic Commitments」
国立新美術館 (東京)、京都国立近代美術館 (京都)
「Enter the Mirror」 Museum of Contemporary Art Chicago (シカゴ、アメリカ)
- 2023 「Die Young, Stay Pretty」 Kotaro Nukaga Gallery (東京)
「Capturing the Moment: Painting After Photography」 Tate Modern (ロンドン、英国)

主な受賞歴

- 1968 Ars Viva-Preis des Kulturkreises der Deutschen Wirtschaft im BDI e.V.
- 2007 Kunstpreis Finkenwerder
- 2015 Cologne Fine Art Prize
- 2018 Outstanding Contribution to Photography, Sony World Photography Awards
- 2022 Lucie Award Honoree
- 2024 Käthe Kollwitz Prize

ニール・ホッド Nir Hod

関連 URL ・ SNS 情報

Web: <https://nirhod.com>

Instagram: [@nirhod](#)

1970 年、イスラエルのテルアビブに生まれる。エルサレムのベツアルエル美術デザイン学院在学中に、ニューヨークのクーパー・ユニオン美術学部に交換留学する。1996 年にテルアビブのノガ・ギャラリーで初個展を開催したのを皮切りに、国内外で個展を開催。現在はニューヨークを拠点に活動している。独自に開発したクロムメッキのキャンバスを用いたシリーズで知られ、ほかにも彫刻や映像など多様な技法・素材による作品を発表している。日本では 2022 年に KOTARO NUKAGA で個展を初開催し、クロム絵画のシリーズ「The Life We Left Behind」の新作と、ファウンドフォトをベースにしたモノクローム絵画を展示した。主なパブリックコレクションにテルアビブ美術館（イスラエル）、ユダヤ博物館（ニューヨーク）など。

略歴

- 1970 イスラエル、テルアビブ生まれ
- 1993 ベツアルエル美術デザイン学院（エルサレム）卒業
(1991 クーパー・ユニオン美術学部に交換留学)

主な個展

- 1996 「The Brush of the Heart」 Noga Gallery of Contemporary Art（テルアビブ、イスラエル）
- 1997 「A Souvenir from November」 Mary Fauzi Gallery（テルアビブ、イスラエル）
「DOHRIN: The Last Painting」 The Museum of Israeli Art（ラマトガン、イスラエル）
- 1998 「Forever Young」 Miami-Dade Community College, Wolfson Galleries（フロリダ、アメリカ）
「Forever」 Liebman Magnan Gallery（ニューヨーク、アメリカ）
- 1999 「Forever」 Lime Light Club（ニューヨーク、アメリカ）
- 2000 「Nir Hod」 Liebman Magnan Gallery（ニューヨーク、アメリカ）
「Controversial Innocence」 Rosenfeld Gallery（テルアビブ、イスラエル）
「Heroes' Tears」 The Borowsky Gallery at the Gershman Y（フィラデルフィア、アメリカ）
- 2001 「Destiny's Days」 Rosenfeld Gallery（テルアビブ、イスラエル）
- 2005 「Luna a Las Vegas」 Alon Segev Gallery（テルアビブ、イスラエル）
「Forever」 Tel Aviv Museum of Art（テルアビブ、イスラエル）
- 2006 「You Are Not Alone」 Jack Shainman Gallery（ニューヨーク、アメリカ）
- 2007 「Faded Heartache」 Galerie Davide Gallo（ベルリン、ドイツ）
- 2008 「Nova 7」 Alon Segev Gallery（テルアビブ、イスラエル）
- 2011 「Genius」 Paul Kasmin Gallery（ニューヨーク、アメリカ）
- 2012 「Mother」 Paul Kasmin Gallery（ニューヨーク、アメリカ）

- 2014 「Once Everything Was Much Better Even the Future」
Paul Kasmin Gallery (ニューヨーク、アメリカ)
- 2015 「Life and Death of a Star」 Michael Fuchs Galerie (ベルリン、ドイツ)
- 2018 「The Life We Left Behind」 MAKASIINI CONTEMPORARY (トゥルク、フィンランド)
「The Life We Left Behind」 GAVLAK (フロリダ、アメリカ)
- 2020 「The Life We Left Behind」 Kohn Gallery (ロサンゼルス、アメリカ)
- 2022 「Exile」 GAVLAK (フロリダ、アメリカ)
「Echo of Memories」 KOTARO NUKAGA (東京)
- 2023 「100 Years Is Not Enough」 Kohn Gallery (ロサンゼルス、アメリカ)

主なグループ展

- 2017 「AnonymX: The End of the Privacy Era」 Haifa Museum of Art (ハイファ、イスラエル)
「Opulent Landscapes」 De Buck Gallery (ニューヨーク、アメリカ)
「Flaming June VII」 GAVLAK (ロサンゼルス、アメリカ)
「Art Goes Logomo」 MAKASIINI CONTEMPORARY (トゥルク、フィンランド)
「Grisaille」 Leila Heller Gallery (ニューヨーク、アメリカ)
「Dreams and Dramas」 Zuzeum Art Centre and Latvia National Museum (リガ、ラトビア)
「ACCROCHAGE」 Michael Fuchs Galerie (ベルリン、ドイツ)
「THE BUNKER」 West Palm Beach (フロリダ、アメリカ)
- 2018 「Points of light In A Nocturnal World」 7 Herkimer Place / Metro Picture (ニューヨーク、アメリカ)
「PAINTING」 Sarah Gavlak Gallery (フロリダ、アメリカ)
「Dancing Goddesses」 Dio Horia gallery (ミコノス島、ギリシャ)
「Shop It」 Haifa Museum of Art (ハイファ、イスラエル)
- 2019 「Inaugural exhibition」 GAVLAK (ロサンゼルス、アメリカ)
「First Person Singular Masculinities in Israeli Art」 Ashdod Art Museum (アシュドッド、イスラエル)
「Fixed Contained」 KOTARO NUKAGA (東京)
- 2020 「Imperfect Clocks」 Chart Gallery (ニューヨーク、アメリカ)
「Autumn Collection」 MAKASIINI CONTEMPORARY (トゥルク、フィンランド)
「2020 Vision」 Southampton Arts Center (ニューヨーク、アメリカ)
「Still still Life」 Sara Hilden Art Museum (タンペレ、フィンランド)
- 2021 「All Tomorrow Parties」 Domicile (ロサンゼルス、アメリカ)

以上

堀内 正和 Masakazu Horiuti

関連 URL ・ SNS 情報

Web: <https://www.tobunken.go.jp/materials/bukko/28217.html>

1911 年、京都市に生まれる。1928 年、東京高等工芸学校工芸彫刻部に入学。翌 29 年、第 16 回二科展に《首》が初入選する。同年、東京高等工芸を中退し番衆技塾に移り、藤川勇造に師事する。33 年、肺疾患となり一時制作を中断、回復後も戦意高揚を促す美術界の動向に疑問をもち、作品発表を中断した。終戦後の 47 年、第 32 回二科展に出品して復帰、同会彫刻部会員となり、66 年に退会するまで出品を続けた。58 年からは京都市立美術大学教授となり、74 年に退任するまで後進の指導にあたった。日本の抽象彫刻のパイオニアであり、その幾何学的な形態やユーモラスな作品は、国内外で高い評価を獲得した。作品は東京国立近代美術館、京都国立近代美術館、神奈川県立近代美術館をはじめ多くの美術館に収蔵されている。

略歴

- 1911 京都市生まれ
- 1928 東京高等工芸学校工芸彫刻部に入学
- 1929 同校を中退し番衆技塾に移り藤川勇造に師事する
- 1958 京都市立美術大学（現・京都市立芸術大学）教授となる（74 年退任）
- 2001 4 月 13 日、肺炎のため東京都渋谷区神宮前の自宅で逝去 享年 90

主な個展・二人展

- 1963 「堀内正和展」神奈川県立近代美術館（神奈川）
- 1978 「堀内正和展」神奈川県民ホール・ギャラリー（神奈川）
- 1980 「山口長男・堀内正和展」東京国立近代美術館（東京）
- 1986 「堀内正和展」渋谷区立松涛美術館（東京）
- 2002 「彫刻家佐藤忠良・堀内正和展」府中市美術館市民ギャラリー（東京）
- 2003 「彫刻家堀内正和の世界展」神奈川県立近代美術館鎌倉館（神奈川）、京都国立近代美術館（京都）、茨城県近代美術館（茨城）、札幌芸術の森美術館（北海道）
- 2018 「堀内正和展—おもしろ楽しい心と形」神奈川県立近代美術館葉山館（神奈川）
- 2023 「芸術という作用—堀内正和の抽象」Yumiko Chiba Associates（東京）
「富井大裕・堀内正和『拗らせるかたち』」Yumiko Chiba Associates（東京）

主なグループ展

- 1957 「第 4 回サンパウロ・ビエンナーレ」（サンパウロ、ブラジル）
- 1968 「I.C.A.現代日本美術展」（ロンドン、英国）
- 1969 「現代世界美術展・東と西の対話」東京国立近代美術館（東京）
「第 1 回現代国際彫刻展」彫刻の森美術館（神奈川）

- 1970 「第2回神戸須磨離宮公園現代彫刻展」神戸須磨離宮公園（兵庫）
- 1971 「第2回インド・トリエンナーレ」（インド）
- 1976 「現代彫刻の5人」兵庫県立近代美術館（兵庫）
- 1991 「辻晋堂・八木一夫・堀内正和展」米子市美術館（鳥取）
- 2024 「コレクションルーム特集『Tardiology への道程』」京都市京セラ美術館（京都）
「イメージと記号 1960年代の美術を読みなおす」神奈川県立近代美術館 鎌倉別館（神奈川）

主な受賞歴

- 1963 第6回高村光太郎賞
- 1969 第1回現代国際彫刻展大賞
- 1975 第3回長野市野外彫刻賞
- 1987 第28回毎日芸術賞

以上

バリー・マッギー Barry McGee

関連 URL・SNS 情報

Web: https://www.perrotin.com/artists/barry_mcgee/774

1966年、アメリカのサンフランシスコに生まれる。84年頃から「TWIST」のタグネームでグラフィティを開始。91年、サンフランシスコ芸術院にて美術学士（絵画・版画）を取得。同芸術院関係者を中心としたローブローアートのムーブメント「ミッション・スクール」を代表するアーティストの一人として注目され、サンフランシスコ芸術基金等のコミッションワークとして市内各所で壁画制作を行う。98年、サンフランシスコ近代美術館で巨大壁画を制作し、同年ウォーカー・アート・センター（ミネアポリス、アメリカ）にて初の個展「Regards」を開催した。2001年のヴェネツィア・ビエンナーレでは、ステファン・パワーズ、トッド・ジェームズらとともに大型インスタレーションを制作。マッギーはストリート・アートやグラフィティ・カルチャーをギャラリーや美術館という環境の中で紹介したパイオニアとして知られ、アメリカの民芸芸術、メキシコの壁画、サーフカルチャーなど、幅広い影響を取り入れたその作品は、都市生活の多様性を称え、社会の末端に存在する人物を描くことで、消費主義文化や商業主義主導の社会への警鐘を鳴らす。

日本では2007年にワタリウム美術館（東京）で初個展を開催。2022年には国際芸術祭「あいち 2022」に参加し、2024年、伊勢丹新宿本店にて「OLDE IFFY/BARRY MCGEE」を開催するとともに、「シブヤ・アロープロジェクト」の一環として JR 恵比寿駅～渋谷駅間の高架下に大型壁画を制作した。主なパブリックコレクションにニューヨーク近代美術館、サンフランシスコ近代美術館、プラダ財団ほか。

略歴

- 1966 アメリカ、サンフランシスコ生まれ
- 1991 San Francisco Art Institute（サンフランシスコ、アメリカ） BFA in Painting & Printmaking 取得

主な個展・二人展

- 1998 「Regards」 Walker Art Center（ミネアポリス、アメリカ）
- 2000 「Hammer Projects: Barry McGee」 UCLA Hammer Museum（ロサンゼルス、アメリカ）
- 2002 Fondazione Prada（ミラノ、イタリア）
- 2004 Rose Art Museum, Brandeis University（ボストン、アメリカ）
- 2005 「Things Are Really Getting Better」 Museum Het Domein Sittard（ジタード、オランダ）
- 2007 「バリー・マッギー」ワタリウム美術館（東京）
- 2008 「They Don't Make this Anymore」 BALTIC Centre for Contemporary Art（ゲーツヘッド、アメリカ）
「The Big Sad: Barry McGee & Clare Rojas」 Riverside Art Museum（リバーサイド、アメリカ）
- 2010 「Leave it Alone, Barry McGee & Clare Rojas」 Bolinas Museum, Bolinas（ボリナス、アメリカ）
- 2012 「Barry McGee, Mid-Career Survey」
Berkeley Art Museum and Pacific Film Archive（バークレー、アメリカ）
- 2013 「Barry McGee, Mid-Career Survey」 Institute of Contemporary Art / Boston（ボストン、アメリカ）

- 「USA FOCUS: Barry McGee」 Modern Art Museum of Fort Worth (フォートワース、アメリカ)
- 2017 「Big Sky Little Moon」 ワタリウム美術館 (東京)
- 2018 「SB Mid-Summer Intensive」
Museum of Contemporary Art Santa Barbara (サンタバーバラ、アメリカ)
「Mid-Summer Fender Bender」 Autobody
(ベルポート・ブルックヘブン歴史協会) (ベルポート、アメリカ)
- 2019 「The Other Side」 Perrotin (香港)
- 2020 「Potato Sack Body」 Perrotin (東京、日本)
- 2021 「Fuzz Gathering」 Perrotin (パリ、フランス)
- 2022 「Everyday sunrise」 Perrotin (ソウル、韓国)
- 2023 「Earthworm」 Perrotin (ロサンゼルス、アメリカ)
- 2024 「OLDE IFFY」 伊勢丹新宿 (東京、日本)

主なグループ展

- 1993 「Texture of Nature」 Berkeley Art Center (バークレー、アメリカ)
- 1997 「New Work: Drawings Today」 San Francisco Museum of Art (サンフランシスコ、アメリカ)
- 1998 「Art from Around the Bay」 San Francisco Museum of Modern Art (サンフランシスコ、アメリカ)
- 2000 「Indelible Market」 Institute of Contemporary Art (フィラデルフィア、アメリカ)
- 2001 「Holdfast: Barry McGee & Margaret Kilgallen, Deste」
Foundation Center for Contemporary Art (アテネ、ギリシャ)
- 2002 「Drawing Now: Eight Propositions」 Museum of Modern Art (ニューヨーク、アメリカ)
- 2004 「Beautiful Losers: Contemporary Art and Street Culture」
Contemporary Arts Center (シンシナティ、アメリカ) ほか巡回
- 2006 「Meditations in an Emergency」 Museum of Contemporary Art Detroit (デトロイト、アメリカ)
- 2007 「Art in America, Now」 Museum of Contemporary Art, (上海、中国)
「Mapping the Self」 Museum of Contemporary Art (シカゴ、アメリカ)
- 2009 「Born in the Streets-Graffiti」 Foundation Cartier (パリ、フランス)
- 2010 「Outside The Box」 Hammer Museum (ロサンゼルス、アメリカ)
- 2011 「After Hours: Murals on the Bowery」 New Museum of Contemporary Art (ニューヨーク、アメリカ)
「New York Minute」 Garage Center for Contemporary Culture (モスクワ、ロシア)
「50 Years of Bay Area Art」 San Francisco Museum of Modern Art (サンフランシスコ、アメリカ)
「Art in The Streets」
The Geffen Contemporary at Museum of Contemporary Art (ロサンゼルス、アメリカ)
- 2013 「Theatrical Gestures」 Herzliya Museum of Contemporary Art (ヘルツリーヤ、イスラエル)
- 2018 「Beyond the Streets」 ロサンゼルス市内 *その後、世界巡回
- 2022 Aichi Triennale, Ichinomiya, Aichi, Japan De Renava Biennale, Corsica, France
- 2023 「Groove: Artists and Intaglio Prints, 1500 to Now」 Hammer Museum (ロサンゼルス、アメリカ)
「New Ground: Jacob Samuel and Contemporary Etching」

ニューヨーク近代美術館（ニューヨーク、アメリカ）

2024 「Into View: New Voices, New Stories – Speculative Fabulation」

アジア美術館（サンフランシスコ、アメリカ）

パブリック・コレクション

ニューヨーク近代美術館（ニューヨーク、アメリカ）

サンフランシスコ近代美術館（SFMOMA）（サンフランシスコ、アメリカ）

バークレー美術館&パシフィック・フィルム・アーカイブ（バークレー、アメリカ）

ウォーカー・アート・センター（ミネアポリス、アメリカ）

ニュー・アート・ギャラリー（ウォルソール、英国）

プラダ財団（ヴェネツィア、イタリア）

The Margulies Collection at the WAREHOUSE（マイアミ、アメリカ）

UCLA ハマー美術館（ロサンゼルス、アメリカ）

Powerlong Museum（中国・上海）

以上

松田 将英 Shōei Matsuda

関連 URL ・ SNS 情報

Web: <https://www.shoeimatsuda.com/>

Instagram: [@shoeimatsuda](#)

X: [@shoeimatsuda](#)

1986 年生まれ。2010 年からインターネット上で匿名のアーティストとして活動を開始。ウェブ・プラットフォームと都市空間を行き来しながら行われるインスタレーションやイベント、パフォーマンスによって大きな注目を集める。その美術の枠を超えた運動はアーティストの主体や作者性を問い直し、直接的に都市や社会に介入することで新たな共同性を作り出す実践として高い評価を受けた。2016 年、アルス・エレクトロニカ賞（デジタルコミュニティ部門）を受賞。同年ドイツ・ベルリンに移住し、2020 年より実名で活動を開始。近年はネットワークが浸透して以降のセレブリティやエコノミー、景観にたいするコンセプチュアルで詩的な実践によって、人々の認識をアップデートする試みを行なっている。近年の主な展示に「それは知っている：形が精神になるとき」（金沢 21 世紀美術館、石川、2023 年）、「DXP一次のインターフェースへ」（金沢 21 世紀美術館、石川、2023 年）など。

略歴

1986 神奈川県生まれ

主な個展

- 2019 「White Magazine」 Eukaryote（東京）
- 2020 「超現代美術展」 ANB Tokyo（東京）
- 2022 「Magic Number」 TOH（東京）
「Extreme Conceptual」 Eukaryote（東京）
「The Laughing Man Store」 渋谷 PARCO（東京）
- 2023 「The Big Flat Now」 Dubai Festival City Mall（ドバイ、アラブ首長国連邦）
- 2024 「Laughism」 FOAM CONTEMPORARY（東京）
「Adaptation」 CON_（東京）

主なグループ展

- 2014 「TEDxTokyo 2014」 ヒカリエホール（東京）
- 2016 「ISEA 2016」 香港城市大學（香港、中国）
「Prix Ars Electronica Exhibition」 OÖ Kulturquartier（リンツ、オーストリア）
「TACIT FUTURES」 フォルクスビューネ（ベルリン、ドイツ）
- 2017 「インフラ INFRA」（オンライン）
「SIGNALS」 DiG Studio（ベルリン、ドイツ）

- 「Meet the Bot, Feed the Bot」 リンツ工科造形芸術大学（リンツ、オーストリア）
- 2018 「#LutherLenin」 Studio Hrdinů（プラハ、チェコ）
「AMBIENT REVOLTS」 ZK/U（ベルリン、ドイツ）
- 2020 「ENCOUNTERS」 ANB Tokyo（東京）
- 2021 「Mob World Reverb」 TALION GALLERY（東京）
「Mimicry of Hollows 虚擬態」 The 5th Floor（東京）
「生態系へのジャックイン展」 見浜園（千葉）
「Standing Ovation 四肢の向かう先」 ホテルニューアカオ（静岡）
- 2022 「Meta Mall」 BnA Alter Museum（京都）
「Meta Fair #01」 Sonoaida（東京）
「新宿流転芸術祭」 Decameron（東京）
「MIND TRAIL」 花矢倉展望台（奈良）
「六本木アートナイト」 東京ミッドタウン（東京）
「ATAMI ART GRANT」 ホテルニューアカオ（静岡）
- 2023 「それは知っている：形が精神になるとき」 金沢 21 世紀美術館（石川）
「DXP一次のインターフェースへ」 金沢 21 世紀美術館（石川）

主な受賞歴

- 2016 「ISEA 2016」 Selected（香港、中国）
「Prix Ars Elecawatronica 2016」 Awards of Distinction（リンツ、オーストリア）

以上

松山 智一 Tomokazu Matsuyama

関連 URL ・ SNS 情報

Web: <https://matzu.net/>

1976 年、岐阜県に生まれる。上智大学を卒業後、2002 年に渡米し、ニューヨークのプラット・インスティテュートにてコミュニケーション・デザイン専攻で MFA を取得。現在はニューヨーク・ブルックリンにスタジオを構える。日本や中国、西欧の伝統的絵画からの引用や、ファッション誌の切り抜き、日常生活で目にする商品や企業ロゴなど、様々なイメージをサンプリングし、それを鮮やかな色彩と精緻な描線で再構成した絵画で知られる。大型の彫刻作品も制作し、2020 年には新宿駅東口駅前広場のリニューアルにともない、大規模なパブリックアートを手がけた。ロサンゼルス・カウンティ美術館、サンフランシスコアジア美術館、龍美術館、ドバイ酋長国王室コレクションなどに作品が収蔵されている。

略歴

- 1976 岐阜県生まれ
- 2000 上智大学 経済学部卒業
- 2004 Pratt Institute (ニューヨーク、アメリカ) Communication Design MFA 取得

主な個展

- 2009 「Glancing at the Twin Peak」 Joshua Liner Gallery (ニューヨーク、アメリカ)
- 2010 「In Case You're Lost」 Frey Norris Gallery (サンフランシスコ、アメリカ)
- 2012 「Thousand Regards」 アメリカン大学美術館カッツェン・アートセンター (ワシントン DC、アメリカ)
「New Works by Tomokazu Matsuyama」 Mark Moore Gallery (ロサンゼルス、アメリカ)
- 2013 「Palimpsest」 ハーバード大学ライシャワー研究所 (ケンブリッジ、アメリカ)
「The Standard Rendez-vous」 Zidoun Bossuyt Gallery (ルクセンブルク)
- 2014 「Sky Is The Limit」 ハーバーシティー (香港、中国)
- 2015 「Made In 17 Hours」 オーストラリア現代美術館 (シドニー、オーストラリア)
- 2017 「Oh Magic Night」 香港コンテポラリーアート財団 HOCA (香港、中国)
- 2018 「Same Same, Different」 LUMINE 0 (東京)
- 2020 「Accountable Nature」 龍美術館 (上海、中国)
- 2021 「Accountable Nature」 龍美術館 (重慶、中国)
「Boom Bye Bye Pain」 KOTARO NUKAGA (東京)
- 2022 「The Best Part About Us」 Kavi Gupta Gallery (シカゴ、アメリカ)
「Harmless Charm」 Sotheby's (香港、中国)
- 2023 「Episodes Far From Home」 Almine Rech Gallery (ロンドン、英国)
「松山智一展：雪月花のとき」 弘前れんが倉庫美術館 (青森)

- 「MATSUYAMA Tomokazu: Fictional Landscape」上海宝龍美術館（上海、中国）
 2024 「Mythologiques」Arsenale（ベニス、イタリア）

主なグループ展

- 2007 「Bunkamura アートショー/BAS2007」Bunkamura ギャラリー（東京）
 「U Can't Touch This: The New Asian Art, Zone」
 チェルシーアートセンター（ニューヨーク、アメリカ）
- 2009 「Lost in Mutation: The Surreal in Contemporary Japanese Art」
 タフツ大学アイデックマン・アートセンター（マサチューセッツ、アメリカ）
- 2010 「Sugoi-POP! The Influence of Anime and Manga on Contemporary Art」
 ポーツマス美術館（ポーツマス、アメリカ）
- 2011 「untitled」チベットハウス美術館（ニューヨーク、アメリカ）
- 2012 「Re:Define」ゴス・マイケル財団（テキサス、アメリカ）
- 2013 「Edo Pop: The Graphic Impact of Japanese Prints」
 ジャパン・ソサエティー（ニューヨーク、アメリカ）
- 2017 「Re:define」ダラス・コンテポラリー（テキサス、アメリカ）
- 2018 「Pardon My Language, Curated by Tomokazu Matsuyama」
 Zidoun-Bossuyt Gallery（ルクセンブルク）
- 2019 「FIXED CONTAINED, Curated by Tomokazu Matsuyama」KOTARO NUKAGA（東京）
- 2020 「We Used To Gather」Library Street Collective（デトロイト、アメリカ）
- 2021 「Realms of Refuge」Kavi Gupta Gallery（シカゴ、アメリカ）
- 2022 「Official Collateral Project（第17回イスタンブール・ビエンナーレ）」イスタンブール（トルコ）
- 2023 「Die Young, Stay Pretty Curated by Tomokazu Matsuyama + Carlos Rolon」
 KOTARO NUKAGA（東京）
 「Sugoi! 200 Years of Japanese Art」カラマズー美術館（ミシガン、アメリカ）
 「Permanent Collection Exhibition」マイアミ・ペレス美術館（マイアミ、アメリカ）
 「ニューホライズン 歴史から未来へ」アーツ前橋（群馬）
- 2024 「クロスアート4 ビロンギングー新しい居場所と手にしたものー」岐阜県美術館（岐阜）

以上

宮島 達男 Tatsuo Miyajima

関連 URL・SNS 情報

Web: <https://tatsuomiyajimastudio.com/>

Instagram: [@tatsuomiyajimastudio](https://www.instagram.com/tatsuomiyajimastudio)

1957 年、東京に生まれる。東京藝術大学で油画を学び、1986 年、同大学院絵画専攻を修了。翌 87 年、初めて LED の作品を発表し、88 年のヴェネツィア・ビエンナーレ「アペルト'88 (若手作家部門)」に出品した《時の海》が高い評価を得る。以降、世界各地で作品を発表し、1999 年のヴェネツィア・ビエンナーレには日本代表として参加した。

宮島の作品は、「それは変わりつづける」、「それはあらゆるものとの関係を結ぶ」、「それは永遠に続く」という 3 つのコンセプトに基づいた LED デジタルカウンターに代表され、それぞれの数字が異なる速度で明滅し、0 (ゼロ) を示さないことによって、時間や人間のライフサイクルの連続性、永遠性、関係性を示唆する。

ロンドンのテートギャラリーやミュンヘン州立近代美術館、東京都現代美術館などに作品が収蔵されているほか、六本木ヒルズ内のテレビ朝日外壁やベネッセアートサイト直島、東京オペラシティ、韓国のリウム美術館など、パブリックアート作品も多い。

略歴

- 1957 東京都生まれ
- 1984 東京藝術大学 美術学部油画科卒業
- 1986 東京藝術大学大学院 美術研究科絵画専攻修了

主な個展

- 1990 「ヒロシマ・インスタレーション」 広島市現代美術館 (広島)
- 1997 「Big Time」 ハイワードギャラリー (ロンドン、英国)
「Counter Line」 サンフランシスコ近代美術館 (サンフランシスコ、アメリカ)
- 2000 「MEGA DEATH: shout! Shout! Count!」 東京オペラシティアートギャラリー (東京)
- 2002 「Count of Life」 アート・ソング美術館 (ソウル、韓国)
- 2004 「Tatsuo Miyajima」 ローマ市立現代美術館 (ローマ、イタリア)
- 2005 「BEYOND THE DEATH」 熊本市現代美術館 (熊本)
- 2008 「Art in You」 水戸芸術館現代美術ギャラリー (イタリア)
- 2016 「Tatsuo Miyajima: Connect with Everything」 MCA Australia (シドニー、オーストラリア)
- 2019 「Tatsuo Miyajima: Being Coming」 上海民生現代美術館 (上海、中国)
「Sky of Time」 Espoo Museum of Modern Art (エスポー、フィンランド)
「Tatsuo Miyajima」 Santa Barbara Museum of Art (サンタバーバラ、アメリカ)
- 2020 「宮島達男クロニクル 1995-2020」 千葉市美術館 (千葉)

主なグループ展

- 1988 「第43回ヴェネツィア・ビエンナーレ：アペルト'88」(ヴェネツィア、イタリア)
- 1996 「プロジェクト・フォー・サバイバル展 1970年代以降の現代美術再訪」
京都国立近代美術館(京都)、東京国立近代美術館(東京)
- 1999 「第48回ヴェネツィア・ビエンナーレ」(ヴェネツィア、イタリア)

受賞歴

- 1998 日本現代芸術振興賞
- 2020 芸術選奨文部科学大臣賞

以上

やんツー yang02

関連 URL ・ SNS 情報

Web: <http://yang02.com/>

Instagram: [@yang02](https://www.instagram.com/yang02)

X: [@yn02](https://twitter.com/yn02)

1984 年、神奈川県に生まれ。デジタルメディアを基盤として、行為の主体を自律型装置や外的要因に委ねることで人間の身体性を焙り出し、表現の主体性を問う作品で知られる。菅野創との共同作品《SENSELESS DRAWING BOT》で、第 15 回文化庁メディア芸術祭アート部門新人賞を、同じく《Avatars》で第 21 回優秀賞を受賞した。2013 年、新進芸術家海外研修制度に採択され、バルセロナ及びベルリンに滞在。TERRADA ART AWARD 2023 ファイナリスト。近年の主な展覧会に、「MOT アニュアル 2023 シナジー、創造と生成のあいだ」(東京都現代美術館)「六本木クロッシング 2022 展：往来オーライ！」(森美術館)、「渉るあいだに佇む - 美術館があるということ」(茅ヶ崎市美術館) など。

略歴

- 1984 神奈川県生まれ
- 2007 多摩美術大学 美術学部情報デザイン学科情報芸術コース卒業
- 2009 多摩美術大学大学院 美術研究科デザイン専攻情報デザイン研究領域修了

主な個展・二人展

- 2013 「JIZZED IN MY PANTS」3331 ギャラリー (東京)
「untitled 2」中村キースヘリング美術館 (山梨)
- 2015 「正しいらくがき」茅ヶ崎市美術館 (神奈川)
- 2016 「Examples」CLEAR EDITION & GALLERY (東京)
- 2019 「岡崎乾二郎、やんツー 2 人展『PEAKES』」中央本線画廊 (東京)
「Art Meets 06 門馬美喜 / やんツー」アーツ前橋 (群馬)
「_prayground」rin art association (群馬)
- 2023 「Back to the Future」rin art association (群馬)
「機械の無意識、演算の外側」NADiff a/p/a/r/t (東京)
「TEFCO vol.1 ～重力発電の夜明け～」WHITEHOUSE (東京)
「Installation in Progress」Gallery BATON (ソウル)
- 2024 「Unknown Technics」Agnès B. Galerie Boutique (東京)

主なグループ展

- 2009 「ICC オープンスペース 2009」NTT インターコミュニケーション・センター[ICC] (東京)
- 2010 「EXTENDED SENSES」Alt Space Loop (ソウル、韓国)

- 2011 「ユートピアのお知らせ」 アキバタマビ 21 (東京)
- 2012 「文化庁メディア芸術祭香港展 2012『PARADE』」 ArtisTree (香港、中国)
- 2013 「文化庁メディア芸術祭山梨展」 山梨県立図書館 (東京)
- 2014 「El error maquinaico」 Centro Multimedia (メキシコシティ、メキシコ)
- 2015 「高松メディアアート祭」 高松城跡玉藻公園披雲閣 (香川)
- 2016 「あいちトリエンナーレ 2016」 愛知県美術館 (愛知)
- 2017 「人工知能美学芸術展」 沖縄科学技術大学院大学 [OIST] (沖縄)
- 2018 「呼吸する地図たち」 山口情報芸術センター [YCAM] (山口)
- 「DOMANI・明日展」 国立新美術館 (東京)
- 2019 「Open Possibilities: 開かれた可能性—ノンリニアな未来の想像と創造@JCC」
ジャパン・クリエイティブ・センター (シンガポール)
- 2020 「トランスレーションズ展—『わかりあえなさ』をわかりあおう」 21_21 DESIGN SIGHT (東京)
- 2021 「新しい実存」 Unexistence Gallery (東京)
- 「遠い誰か、ことのありか」 札幌文化芸術交流センター SCARTS (北海道)
- 2022 「Drawing - Plurality」 PARCO MUSEUM TOKYO (東京)
- 「既知との遭遇」 Demachi (京都)
- 「N/World」 MtK Contemporary Art (京都)
- 「Y.N.W.P」 ソノアイダ # 新有楽町 (東京)
- 「Material Gestures - Lines -」 CREATORE with PLUS (愛知)
- 「どうぐをプレイする Tools for Play」 NTT インターコミュニケーション・センター[ICC] (東京)
- 「風の目たち」 obscura (トビリシ)
- 「ATAMI ART GRANT 2022」 ACAO 他 (静岡)
- 「動く展～森羅万象のオノマトペ～」 板橋区立教育科学館 (東京)
- 「六本木クロッシング 2022 展：往来オーライ！」 森美術館 (東京)
- 2023 「渉るあいだに佇む—美術館があるということ」 茅ヶ崎市美術館 (神奈川)
- 「PLAY / LIVE ANOTHER DAY @PARCEL」 PARCEL (東京)
- 「MEET YOUR ART FESTIVAL 2023」 B&C HALL (東京)
- 「MOT アニュアル 2023 シナジー、創造と生成のあいだ」 東京都現代異美術館 (東京)

主な受賞歴

- 2009 第 13 回文化庁メディア芸術祭 アート部門 審査委員会推薦作品
- 2011 第 15 回文化庁メディア芸術祭 アート部門 新人賞
- 2015 東京 TDC 賞 RGB 賞
- 2017 第 20 回文化庁メディア芸術祭 アート部門 審査委員会推薦作品
- 2018 第 21 回文化庁メディア芸術祭 アート部門 優秀賞
- 2022 第 25 回文化庁メディア芸術祭 アート部門 審査委員会推薦作品
- 2023 TERRADA ART AWARD 2023 ファイナリスト 寺瀬由紀賞

和田 礼治郎 Reijiro Wada

関連 URL ・ SNS 情報

Web: <https://www.reijirowada.com/>

1977 年に日本の広島で生まれ、現在はドイツのベルリンで活動する彫刻家・和田礼治郎は、物理的な現象や力学による独自の手法を通じて、宇宙、生命、時間などの形而上学的な主題に取り組んでいます。水面にガラス製モジュールを浮かべた《ISOLA》、果実の腐敗の痕跡が真鍮板の上に抽象的な構図を生み出す《VANITAS》、時間の経過を暗示する液体としてのワインを用いた《SCARLET》、生の果実が空中に浮かぶ《STILL LIFE》などによって、国内外で評価を確立してきました。和田は時に環境に直接的に介入し、多次元的な配置が特徴的なその彫刻作品は、見る者の知覚と作品が置かれた空間に作用を及ぼします。

略歴

- 1977 広島県広島市生まれ
- 2000 広島市立大学 芸術学部美術学科彫刻専攻卒業
- 2002 広島市立大学大学院 芸術学研究科博士前期課程彫刻専攻修了
- 2008 東京藝術大学大学院 美術研究科博士後期課程彫刻専攻修了 博士号（美術）取得

主な個展

- 2012 「クンストカマーNo.17—和田礼治郎」ゲオルグ・コルベ美術館（ベルリン、ドイツ）
- 2014 「静物」NuN（ベルリン、ドイツ）
- 2016 「禁断の果実」レコレ国際センター（パリ、フランス）
「和田礼治郎—HaL Hofskulptur#1」ハウス・アム・リュッツォープラッツ（ベルリン、ドイツ）
- 2017 「Scarlet」CAPSULE（東京）
- 2022 「Exosphere」CAPSULE（東京）
「# 31 和田礼治郎」SCAI PARK（東京）
「Market and Thieves in a Cloister」SCAI THE BATHHOUSE（東京）
- 2024 「NACT View 04 Reijiro Wada: FORBIDDEN FRUIT」国立新美術館（東京）
「VINEYARD」ALTO DE PIOZ（ピオス、スペイン）

主なグループ展

- 2009 「ベオグラード:ネメスタ」ベオグラード現代美術館（ベオグラード、セルビア）
- 2010 「UM10 ウッカーマルク現代美術祭」ウッカーマルク（ブランデンブルク、ドイツ）
- 2012 「どのように新しさは世界に入ってくるのか？ベルリンの9人の国際的彫刻家」
ハウス・アム・バルドゼー（ベルリン、ドイツ）
- 2013 「あいちトリエンナーレ 2013」オアシス 21（愛知）
「ベルリン ステータス 2」クンストラーハウス・ベタニエン（ベルリン、ドイツ）

- 2014 「ヴァニタスー永久なるものは何もない」 ゲオルグ・コルベ美術館（ベルリン、ドイツ）
- 2016 「断片化された時間」 カティンカ・タバカル ギャラリー（ニューヨーク、アメリカ）
- 2017 「On the Art of Building a Teahouse」 ノイエス・ムゼウム（ベルリン、ドイツ）
「和田礼治郎 / アリエル・シュレジンガー」 SCAI THE BATHHOUSE（東京）
- 2018 「ダレン・アーモンド・ヴァジコ・チャッキアーニ・和田礼治郎」 SCAI PARK（東京）
- 2018 「NGORONGORO II」 Lehderstr.34（ベルリン、ドイツ）
「Frozen to Pieces」 ノイエス・ムゼウム（ベルリン、ドイツ）
「トビリシ建築ビエンナーレ」 トビリシ（ジョージア）
- 2020 「アースライト—SFによる抽象の試み」 駒込倉庫（東京）
「ヴァジコ・チャッキアーニ&和田礼治郎：A Silent Conversation」
ダニエル・マルツォーナ（ベルリン、ドイツ）
- 2021 「アップル・サイクル / コスミック・シード」 弘前れんが倉庫美術館（青森）
- 2022 「Ambivalent Landscapes」 ベルリン国立アジア美術館（ベルリン、ドイツ）
- 2023 「Before / After」 広島市現代美術館（広島）
- 2024 「Nina Canell / Reijiro Wada 42 Days」 SCAI PIRAMIDE（東京）

以上